

漢史一
斑
小水井
即編

179
2
54
四一〇
册號架函

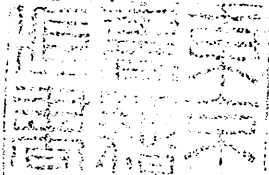
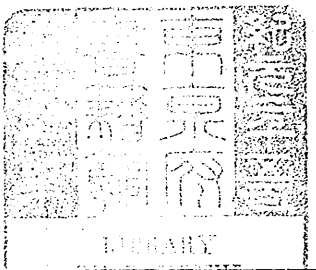
一本

K110,22
5
2

漢史一斑 第二卷

明治十年圖書局發行

小永井八郎 編



子炎嗣之皇帝
 晋泰始元年
 吳寶鼎元年
 陽 = 鎮ス、
 樂郷 = 治ス、
 濟大 = 舟艦ヲ作ル、木秣江ヲ蔽テ下ル、吳ノ建
 太守吾彦晋ノ吳ヲ攻ル計アルヲ知リ、建平ノ

司馬氏始河南洛陽縣 =
 後陝西長安縣 = 遷ル、
 炎字ハ 晋泰始元年、晋王昭卒ス、
 父ハ昭、 吳甘露元年、
 稱ス、魏主ヲ廢シテ陳留王トス、
 晋羊祜ヲ都督荊州諸軍事トシ、襄

晋泰始六年、吳陸抗ヲ都督軍事トシ、
 吳建衡二年、
 晋泰始八年、
 吳鳳凰元年、
 晋王濬ヲ益州刺史ト

漢史一斑 第二卷

大正十一年

兵ヲ増スヲ請フ、吳王從ハス、彥乃鐵鎖ヲ爲リテ、
 江路ヲ横斷ス、羊祜陸抗境ヲ對シ、使命常ニ通ス、
 抗酒ヲ遺ル、祜飲テ疑ハス、抗疾ム、藥ヲ祜ニ求ム、
 人多、諫ム、抗曰久、豈人ヲ酖スル羊叔子アランヤ、
晉咸寧四年、吳天紀二年、晉ノ羊祜入朝ス、先ニ吳ノ陸抗死
 ス、祜吳ヲ伐タント請フ、議者多、同シカラス、祜歎シ
 テ曰久、天下意ノ如クナラサルコト十カ八九ト、是
 ニ至テ吳ヲ伐ツノ計ヲ陳ス、晉主祜カ病メルヲ
 以テ卧ナカラ諸將ヲ護セシム、祜曰久、吳ヲ取ル
 ハ臣カ行クヲ須クス、但既ニ平クノ後、當ニ聖慮

ヲ勞スヘキノミ、晉ノ太子昏愚嗣タルニ堪ヘス、
 衛瓘陽リ醉テ晉主ノ前ニ跪キ、手ヲ以テ牀ヲ撫
 テ曰ク、此座惜ムヘシ、晉主悟リ、因テ謬テ曰ク、公
 真ニ大醉スルカ、晉杜預ヲ鎮南大將軍都督荊州
 軍事トス、鉅平侯羊祜卒ス南州ノ民市ヲ罷テ巷
 哭ス、吳ノ守邊ノ將モ亦泣ク、
晉咸寧五年、吳天紀三年、晉匈
 奴ノ劉淵ヲ左部帥トス、淵ハ并州境内ニ居ク所
 ノ左賢王豹ノ子ナリ、五胡華ヲ亂ルノ禍此ヨリ
 始ル、晉大舉シテ吳ヲ伐ツ、杜預ハ江陵ヨリ出テ、
 王濬ハ巴蜀ヨリ下ル、太康元年、諸軍並ヒ進ム、

吳ノ丞相張慄戰死ス、王濬舟師ヲ以テ武昌ヨリ
 下リテ、直ニ石頭ニ入ル、吳主皓降ル、杜預將ヲ遣
 リ奇兵ヲ帥テ夜江ヲ渡ル、吳ノ將懼テ曰ク、北來
 ノ諸軍飛ヒ渡ルカ、孫皓至ル、帝引見シテ謂テ曰
 ク、朕此座ヲ設ケテ卿ヲ待ツ、皓曰ク、臣南方ニ於
 テ亦此座ヲ設ケテ陛下ヲ待ツ、十一年、惠帝永
熙元年帝崩ス、帝稍、繼ナリ、後宮數千人アリ、帝常ニ羊車
 ニ乗ル、宮人竹葉ヲ門ニ挿ミ、鹽ヲ洒テ帝ノ車ヲ
 引ク、太子衷即位ス、孝惠帝諱ハ衷字ハ正
度武帝ノ子元康元年
 皇后賈氏太傅楊駿ヲ殺シ、皇太后楊氏ヲ廢ス、帝

母尋テ之ヲ金墉城ニ弑シ、皇后、太宰亮汝南王大保
 衛瓘及楚王瑋ヲ殺ス、賈模、張華、裴頠ヲ侍中トス、
 並ニ機要ヲ管ル、華忠ヲ帝室ニ盡シ、闇主虐后ニ
 遇ヘトモ、頠ト心ヲ同クシテ匡輔ス、七年、王戎
 ヲ司徒トス、戎三公トナリ、時ト浮沈ス、時ニ王澄
 阮咸等皆任放ヲ達トス、王衍樂廣清談ヲ善ス、山
 濤嘗テ衍ヲ見テ曰ク、何物ノ老嫗カ寧馨兒ヲ生
 メル、然レトモ天下ノ蒼生ヲ悞ル者、必レモ此人
 ニ非スンハアラス、九年、侍中賈模卒フ、賈后淫虐
 日ニ甚シ、模裴頠ト諫レトモ聽カス、憂憤シテ死

ス、帝黷駭ナリ、天下荒饉シ百姓餓死ス、帝曰ク、何
 ノ肉糜ヲ食ハサル、永康元年、皇后太子適ヲ殺
 ス、趙王倫皇后賈氏ヲ廢弑ス、遂ニ司空張華僕射
 裴頡ヲ殺シ自相國トナル、淮南王允倫ヲ討ス、克
 タスレテ死ス、倫黃門郎潘岳衛尉石崇等ヲ殺ス、
 永寧元年、趙王倫皇帝ト自稱シ、帝ヲ金墉城ニ
 遷ス、黨與皆卿相トナル、奴卒モ亦爵位ヲ加フ、貂
 蟬侍中中常朝ニ滿ツ、時人語テ曰ク、貂不足、狗尾
 續、齊王冏成都王穎河間王顥等ト兵ヲ舉テ倫ヲ
 討ス、倫伏誅ス、冏政ヲ輔ク、穎顥各鎮ニ還ル、太

安元年、河間王顥長沙王又ヲレテ齊王冏ヲ殺サ
 レム、二年、河間王顥成都王穎兵ヲ舉ケテ反ス、
 長沙王又帝ヲ奉レテ穎ト戰フ、穎カ前鋒陸機戰
 敗ル、因テ譖セラレテ收ハル、歎シテ曰ク、華亭ノ
 鶴唳復聞ク可キカト、弟雲ト皆穎ニ殺サル、穎兵
 ヲ進メテ京師ニ通ル、永興元年、東海王越張方
 ヲレテ長沙王又ヲ殺サレム、穎京師ニ入り自承
 相トナル、己ニレテ鄴ニ還ル、顥穎ヲ表レテ、皇太
 弟トス、越帝ヲ奉レテ穎ヲ征ス、穎蕩陰ニ拒戦ス、
 乘輿敗績ス、侍中稽紹身ヲ以テ帝ヲ衛リ殺サル、

血帝ノ衣ニ濺ク、穎帝ヲ迎ヘテ鄴ニ入ル、左右帝ノ衣ヲ浣ハント欲ス、帝曰ク、稽侍中ノ血浣フコト勿レ、劉淵大單于ト自稱ス、淵ノ從祖其族人ニ謂テ曰ク、司馬氏骨肉相殘シ、四海鼎沸ス、呼韓邪ノ業ヲ復スルハ此其時ナリト、乃相與ニ謀リテ、淵ヲ推テ大單于トス、幽州都督王浚并州刺史東嬴公勝兵ヲ起シテ穎ヲ討ス、穎帝ヲ奉レテ洛ニ還ル、李雄成都王ト自稱ス、劉淵漢王ト自稱ス、後淵帝ト稱ス、張方帝ヲ長安ニ遷ス、顯太弟穎ヲ廢シ、豫章王熾ヲ太弟トス、二年、東海王越自徐州都督ヲ

領シ、檄ヲ傳ヘテ張方ヲ討ス、光熙元年、頓丘太守馮嵩成都王穎ヲ執ヘテ鄴ニ送ル、范陽王虓鄴ニ在リ、虓卒ス、長史劉輿穎ヲ誅シ、帝毒ニ中リテ崩ス、或ハ曰ク、東海王越之ヲ鳩スト、太弟熾立ツ、孝懷帝諱ハ熾、字ハ豐度、武帝ノ第二十五子、永嘉元年、太傅越出テ、許昌ニ鎮ス、瑯琊王睿ヲ安東將軍都督揚州諸軍事トシ、建業ニ鎮ス、睿王導ヲ謀主トス、導司徒タリ、弟澄荊州都督タリ、族弟敦青州刺史タリ、導曰ク、荊州江漢ノ固アリ、青州負海ノ險アリ、吾中ニ居ル、三窟トナスニ足レリ、慕容廆鮮卑大單

于ト自稱ス、四年、漢主淵卒ス、太子和立ツ、其弟
總弒シテ之ニ代ハシ、拓跋猗盧ヲ代公トス、五
年、漢ノ石勒太傅越ヲ追破ス、勒襄陽ニ寇ス、越之
ヲ討ス、微兵至ラス、憂懼シテ卒ス、衆王衍ヲ推シ
テ元帥トス、俄ニシテ舉軍敗レテ執ハル、衍自言
ス、少ヨリ官情ナシ、世事ニ豫ラスト、勒怒リテ曰
ク、君名望重任ニ居リ、少壯ヨリ白首ニ至ル、何ソ
世事ニ豫ラスト言ハント、遂ニ殺カシ、漢人入寇
シテ、洛陽ヲ陷レ、帝ヲ平陽ニ遷ス、司寇荀藩秦王
鄴ヲ奉シテ許昌ニ超シ、漢ノ劉曜長安ニ寇シ、遂

ニ之ニ據ル、瑯邪王睿周顛ヲ軍諮祭酒トス、桓彝
亂ヲ避テ江ヲ過ク、王導ヲ見テ曰ク、江左ニ管夷
吾ヲ見ル、復憂ナシ、六年、雍州刺史賈足等進テ
長安ヲ圍ム、劉曜敗走ス、秦王鄴長安ニ入ル、漢ノ
石勒襄國ニ據ル、賈足等秦王鄴ヲ奉シテ皇太子
トス、孝愍帝諱ハ鄴、字ハ彦旗、武帝ノ孫、吳王晏ノ子建興元年、漢主
劉聰懷帝ヲ平陽ニ弒ス、太子鄴長安ニ即位ス、瑯
琊王睿ヲ左丞相トシ、南陽王保ヲ右丞相トス、分
ツテ陝東西諸軍事ヲ督ス、祖逖少ヨリ大志アリ、
嘗テ劉琨ト同寢ス、中夜雞鳴ヲ聞キテ、琨ヲ蹴テ

曰ク此惡聲ニ非スト、因テ起舞ス、江ヲ渡テ睿ニ
 説ク、睿乃千人ヲ給シ、部曲ヲ將井テ江ヲ渡ラシ
 ム、遼中流ニ楫ヲ擊テ曰ク、祖逖中原ヲ清ムルコ
 ト能ハスハ復濟ラス、二年張軌ヲ大尉涼州牧
 トス、四年劉曜長安ヲ陷ル、帝出テ降ル、御史中
 丞吉朗之ニ死ス、

東晉紀

宣帝ノ曾孫、瑯琊恭王
 勳ノ子、建業ニ都ス、

中宗元帝諱ハ睿、字ハ景文、睿ノ母小吏牛金ニ通
 ス、睿實姓ハ牛、時ニ牛馬ニ繼ク毀アリ、
 建武元年、丞相睿晉王ノ位ニ即ク、漢主劉聰、愍帝
 ヲ平陽ニ弒ス、太興元年、漢主劉曜、王皇帝ノ位

ニ即ク、二年、後趙高祖、漢號ヲ趙ト改ム、石勒趙
 王ト稱ス、是ヲ後趙トス、三年、涼王張茂、後趙ノ兵退走
 ス、先ニ陳川叛ス、祖逖之ヲ救ス、祖逖進テ雍邱ニ屯ス、逖
 新附ヲ撫納シ、兵ヲ練リ穀ヲ積ミ、河北ヲ取ルヲ
 計ル、石勒之ヲ患ヒ、乃幽州ヲ下シ、逖ノ爲ニ祖父
 ノ墓ヲ修メ守塚ヲ置ク、逖ノ牙門童建降ル、勒斬
 テ首ヲ逖ニ送ル、逖モ亦後趙ノ叛降ヲ納レス、侵
 暴ヲ禁シ、邊境ヲ安ニス、永昌元年、王敦兵ヲ舉
 テ反ス、敦征討ヲ總ヘ、王導機政ヲ專ニス、群從子
 弟皆顯用セラレ、時人語テ曰ク、王ト馬ト天下ヲ

共ニスト、後敦驕恣ナリ、帝之ヲ畏惡シ、劉隗ヲ協
ヲ引テ王氏ヲ抑損ス、敦益不平ナリ、遂ニ兵ヲ武
昌ニ舉ケ、隗協ヲ罪狀ス、導宗族ヲ帥井テ罪ヲ待
ツ、敦石頭ニ據ル、協隗等出テ戰ヒ、俱ニ敗ラシ、冬
帝崩ス、太子紹卽位ス、諱ハ紹、字ハ道肅宗明帝諱ハ元、字ハ長子
太寧二年、涼王張駿司徒王導ニ大都督ヲ加ヘ、諸
軍ヲ督シテ敦ヲ討ス、敦兵ヲ發シテ病ム、郭璞ニ
筮セシム、璞曰ク、明公事ヲ起サハ禍必久シカラ
ス、敦大ニ怒リテ曰ク、卿ノ壽幾何ソ、璞曰ク、命今
日ノ日中ニ盡キン、敦之ヲ斬ル、帝夜諸軍ヲ帥井

テ敦カ兄含ノ軍ヲ破ル、敦含ノ敗ヲ聞テ怒リ、因
テ作執シテ自行シト欲ス、困乏シテ復卧ス、尋テ
死ス、其黨悉ク平ク、敦ノ死ヲ發シテ之ヲ斬ル、
三年、陶侃ヲ都督荆湘等州軍事トス、侃性聰敏、吏
治ニ勤ム、廣州ニ在テ、朝ニ百甓ヲ齋外ニ運シ、暮
ニ齋内ニ運ス、曰ク、吾カヲ中原ニ致サント欲ス、
故ニ勞ヲ習フ、帝崩ス、司徒王導中書令庾亮尚書
令下壺遺詔ヲ受テ政ヲ輔ク、太子衍卽位ス、太后
朝ニ臨ミテ制ヲ稱ス、諱ハ衍、字ハ世顯宗成帝諱ハ明、字ハ長子
咸和二年、蘇峻ヲ徵シテ大司農トス、峻祖約ト兵

ヲ舉テ反シ、姑孰ヲ陷ル、三年、後趙太和元年尚書令卞壺軍ヲ督シテ峻ヲ討ス、戰敗レテ之ニ死ス、二子相隨テ敵ニ赴テ死ス、母其尸ヲ撫テ曰ク、父ハ忠臣タリ、子ハ孝子タリ、何ソ恨ミシ、庾亮出奔ス、峻ノ兵闕ヲ犯ス、陶侃温嶠入りテ峻ヲ討ス、峻帝ヲ石頭ニ遷ス、侃嶠峻ヲ擊テ之ヲ斬ル、七年、前趙已前年後趙ノ石勒帝ト稱ス趙主石勒大ニ群臣ヲ饗ス、問テ曰ク、朕ハ古ノ何等ノ主ニ比セシ、或曰ク、漢高ニ過キタリ、勒笑テ曰ク、人豈自知ラサランヤ、高帝ニ遇ハ、北面シテ之ニ事フヘシ、光武ニ遇ハ、中

原ニ並ヒ驅ルヘシ、未鹿ノ誰カ手ニ死スルヲ知ラス、咸康四年、漢李壽漢興元年、代付翼捷建國元年更メテ王導ヲ丞相トス、明年卒ス、五年、庾冰ヲ中書監楊州刺史トシ、尚書事ヲ參録セシム、七年、慕容皝ヲ燕王トス、八年帝崩ス、瑯琊王岳即位ス、諱ハ岳、字ハ世同、成帝ノ弟建元元年、中原ヲ經略スルヲ議ス、庾翼胡ヲ滅シ蜀ヲ取ルヲ己カ任トシ、桓宣ヲ表シテ諸軍ヲ督セシム、宣趙ノ兵ト丹水ニ戰テ敗績シ、慙憤シテ卒ス、二年帝崩ス、太子聃即位ス、太后朝ニ臨ム、孝宗穆帝、諱ハ聃、字ハ彭、子、康帝ノ太子永和元

年、會稽王昱ヲ撫軍大將軍トシ、尚書事ヲ録セシム、桓温ヲ都督荆梁等州軍事トス、庾翼病ム、何充曰ク、荆楚ハ國ノ西門、桓温英略人ニ過キタリ、西任温ニ過クル者ナシ、劉惔昱ニ謂テ曰ク、温ハ形勝ノ地ニ居ク可カラス、昱聽カズ、張駿自涼王ト稱ス、五主ニ傳テ秦王 二年、桓温師ヲ帥井テ漢ヲ伐ツ、漢主李勢降ル、趙太寧元年、趙主石 五年、趙太寧元年、趙主石 五年、趙太寧元年、趙主石虎元年、是歲石蒲洪降ル、趙其都督ヲ罷ルヲ以テナリ、明年自三秦王ト稱ス、姓ヲ符ト改ム、 七年、秦王苻健皇始元年、苻健秦天王ト自稱ス、八年、是歲趙亡 八年、是歲趙亡

慕容儁、苻健並 殷浩 楊州刺史 退テ壽春ニ屯ス、浩北伐シテ功ナシ、復再舉ヲ謀ル、中軍將王羲之書ヲ遣リテ止ム、トモ從ハス、九年、殷浩兵ヲ遣リテ姚襄ヲ襲ス、克タズ、遂ニ諸軍ヲ率井テ北伐ス、襄邀ヘテ之ヲ敗ル、浩譙城ニ走ル、襄ハ弋仲ノ子先ニ來歸シ、歷陽ニ屯田ス、浩其疆盛ヲ惡ミテ是ニ至ル、十年、涼王張祚 殷浩ヲ免シテ庶人トス、浩北伐シテ屢敗ル、廢セラレテ内私ニ愁怨ス、桓温書ヲ遣リテ再用セントス、浩喜ヒ答書ニ、謬誤アラニコトヲ慮リテ、開閉スルコト十數、竟ニ空函ヲ

漢書 卷三十一 地理志 十一

達ス、温大ニ怒ル、是ニ由テ遂ニ絶ス、桓温師ヲ帥
井テ秦ヲ伐チ、大ニ秦ノ兵ヲ藍田ニ敗ル、進ミテ
灊上ニ軍ス、三輔皆降ル、北海ノ王猛温ニ謁ス、蟲
ヲ捫リ當世ノ務ヲ談ス、温載セテ與ニ還ラント欲
ス、猛就カス、十二年、桓温ヲ征討大都督トシ、姚
襄ヲ計ス、温進テ河上ニ至リ、中原ヲ望テ曰久、神
州陸沈スルコト百年、王夷甫諸人其責ニ任セサ
ルヲ得スト、伊上ニ至ル、襄敗走ス、温金墉ニ屯シ、
諸陵ニ謁シ鎮戍ヲ置テ還ル、襄尋テ秦ノ兵ニ斬
ラル、弟萇秦ニ降ル、秦ノ符堅其君生ヲ弑シ、大秦

天王ト自稱ス、王猛ヲ見テ大ニ悦ス、四年、桓温
謝安ヲ征西司馬トス、安少ヨリ重名アリ、徵辟皆
就カス、士大夫相謂テ曰久、安石出テスシハ、蒼生
ヲ如何ンセン、五年、帝崩ス、瑯邪王丕即位ス、
哀皇帝諱ハ丕、字ハ千齡、成帝ノ長子、興寧元年、桓温郝超ヲ參軍
トシ、王珣ヲ主簿トス、每事必二人ト謀ル、府中語
テ曰久、鬣參軍、短主簿、能使公喜、能使公怒、超ハ鬣
アリ、珣ハ短キ故ナリ、三年、帝崩ス、瑯邪王奕即
位ス、帝奕諱ハ奕、字ハ延齡、哀帝ノ同母弟、桓温之ヲ廢ス、太和四年、桓
温師ヲ帥井テ燕ヲ伐チ、枋頭ニ戰フ、利アラスシ

漢書 卷三十一 地理志 十一

テ還ル、燕ノ慕容垂既ニ晋ノ軍ヲ枋頭ニ破リ、威名益振フ、燕王之ヲ忌ミ、垂秦ニ奔ル。五年是歲燕七、秦ノ王猛諸軍ヲ督シテ燕ヲ伐ク、秦王苻堅鄴ニ入り、燕王暉ヲ執テ歸ル。太宗簡文帝諱ハ暉ノ六子咸安元年、大司馬温入朝シテ、帝ノ廢シ、會稽王昱ヲ迎立ス。温枋頭ノ敗ヨリ威名頓ニ挫ク、郝超伊霍ノ舉ヲ爲テ、威權ヲ立ツルヲ勸ム。温遂ニ入朝シ、帝ヲ廢ス。二年、帝崩ス、太子曜即位ス、烈宗孝武帝諱ハ曜、字ハ昌明、簡文帝ノ第三子、寧康元年、大司馬温入朝ス、人情恟々タリ、謝安神色變セス、從容ト

シテ温ト語ル、郝超帳中ニ在リ、風動テ帳開ク、安笑テ曰ク、郝超ハ入幕ノ賓ト謂フヘシ、温疾アリテ姑孰ニ還ル、尋テ卒ス。三年、秦ノ丞相王猛卒ス、猛終ニ臨テ堅ニ謂テ曰ク、晋江南ニ僻處スト、雖、正朔相承ク、上下安和ス、願クハ晋ヲ圖ルコト勿レ、堅哭シテ曰ク、天何ソ吾景略ヲ奪フコトノ速ナルヤ、太元二年、謝玄北軍事ヲ監ス、時ニ秦寇ヲ憂フ、謝安兄ノ子女ヲ舉ク、八年、秦大舉シテ入寇ス、此舉ヤ中外皆諫ム、堅曰ク、吾鞭ヲ江ニ投スルモ、其流ヲ斷ツヘシト、我、征討大都督謝石

前鋒都督謝玄之ヲ拒ク、劉牢之精兵ヲ帥、井テ洛
澗ヲ渡ル、石等水陸ヨリ進ム、堅晋兵ノ部伍整ノ
ヲ望ミ、又八公山ノ艸木ヲ見テ皆兵ナリトシ、始
テ懼ル、秦兵淝水ニ逼テ陣ス、玄謂ハシメテ曰ク
陣ヲ移シテ少ク却ソケ、我兵渡リテ勝負ヲ決セ
ン、堅晋兵ノ半渡ル時之ヲ蹙メントシ、其兵ヲ麾
テ却ク、兵退テ復止ム可ラス、我降將朱序其陣後
ニ呼ハリテ曰ク、秦兵敗ルト、遂ニ潰ス、玄等勝ニ
乘テ追撃ス、秦兵大ニ敗レテ走ル、九年慕容垂
燕王ト自稱ス、後燕秦ノ司馬姚萇秦王ト自稱ス、

後秦トス、十年、燕ノ慕容冲帝ヲ阿房ニ稱シ、西燕長
安ヲ攻ム、秦主苻堅出奔ス、後秦主萇執ヘテ之ヲ
殺ス、堅ノ子丕帝ヲ晋陽ニ稱ス、乞伏國仁單于ト
自稱ス、西秦トス、十一年、拓拔珪復立テ代王トナル、
珪ハ代王什翼犍ノ孫、國亂ヲ避ケ、母ト走リテ劉
庫仁ニ依ル者ナリ、後、魏ト改稱シ、終ニ帝ト稱ス、
秦ノ苻登丕カ死ヲ聞テ、帝ヲ南安ニ稱ス、二十
年、丹陽尹王雅ヲ太子少傅トス、時ニ會稽王道子
專權奢縱ナリ、帝雅及王恭殷仲堪王珣等ヲ内外
ノ要任ニ居キテ之ヲ防ク、二十一年、燕慕容寶元
魏元

年、三河王呂光涼天王ト自稱ス、貴人張氏帝ヲ清
 暑殿ニ弑ス、太子德即位ス、帝張氏ニ戲レテ曰ク
 汝モ年ヲ以スレハ亦廢スヘシ、貴人婢ヲレテ之
 ノ弑セシム、安帝諱ハ德、字ハ德宗、武帝ノ長子、隆安元年、禿髮
 烏孤西平王ト自稱シ、涼ヲ攻テ金城ヲ取ル南涼トス、
 王恭上表シテ王國寶等ヲ罪狀シ、兵ヲ舉ク、詔シ
 テ國寶ニ死ヲ賜ヒ、王緒ヲ市ニ斬ル、涼ノ段業叛
 ス、沮渠蒙遜之ニ歸ス、後涼王ト稱ス、北涼トス、二年、慕容德燕
 王ト稱ス、南燕トス、王恭殷仲堪桓玄反ス、恭カ司馬劉
 牢之恭ヲ執ハテ降ル、三年、孫恩冠シテ會稽ヲ

陷ル、劉牢之ノ參軍劉裕勇健大志アリ、賊ヲ擊テ
 之ヲ敗ル、恩逃ル、後海ニ赴テ死ス、其黨盧循徐道覆復起ル、四年、此西秦秦ニ降ル、北涼ノ李暠涼公ト自稱ス、西涼トス、五年、沮
 渠蒙遜張掖公ト自稱ス、亦北涼ト稱ス、後主ト稱ス、元興元
 年、桓玄反ス、初玄父温ニ嗣テ南郡公トナリ、雄豪
 自處ル、遂ニ兵ヲ舉テ建康ニ入り、會稽ノ世子元
 顯ヲ殺シ、又道子ヲ殺ス、二年、是歲涼亡ス、桓玄自相
 國トナリ、楚王ニ封セラル、遂ニ玄皇帝ト稱シ、帝
 ノ廢レテ尋陽ニ遷ス、御座ニ登テ床忽忽ル、三
 年、劉裕兵ヲ京口ニ起シテ玄ヲ討ス、裕何無忌劉

毅ト與ニ謀ヲ定メ、徒衆ヲ收合ス、玄憂懼特ニ甚
シ、裕進ミテ玄ノ兵ヲ破ル、玄出走ス、首ヲ江陵ニ
斬ル、帝復位ス、義熙元年劉裕ヲ都督十六州軍
事トス、三年、赫連勃勃秦ニ叛シ、朔方ニ據ル、大夏
天王ト稱ス、勃々ハ匈奴ノ劉衛辰ノ子ナリ、五
年、劉裕南燕ヲ伐テ大ニ之ヲ破ル、魏ノ清河王紹
其君珪ヲ弑ス、齊王嗣紹ヲ討殺シテ自立ス、六
年、是歲南燕亡ス、劉裕廣固ヲ拔テ南燕王超ヲ執ヘ、建康
ニ送テ之ヲ斬ル、盧循裕カ北伐スルヲ聞テ、長沙
南康廬陵豫章ヲ攻陷ス、裕軍ヲ引テ還ル、何無忌

徐道覆ヲ討チテ戰死ス、諸軍力戰シテ、遂ニ循ヲ
退ク、裕追テ之ヲ破ル、循走ル、遂ニ斬ラル、十年、
乞伏熾盤南涼ヲ滅ス、十二年、太尉劉裕秦ヲ伐
ツ、王鎮惡檀道濟軍ヲ將井テ秦ノ境ニ入り、遂ニ
洛陽ニ克ツ、十三年、是歲秦劉裕潼關ニ至リ、王
鎮惡ヲ遣リテ渭ヲ渡リ、入りテ大ニ秦ノ兵ヲ破リ、
遂ニ長安ニ入ル、秦主泓出テ降ル、建康ニ送テ之
ヲ斬ル、裕子義真ヲ留メテ都督雍梁秦州軍事ト
シテ、東ニ還ル、明年夏王勃勃長安ヲ陷ル、義真逃
レ歸ル、十四年、劉裕帝ヲ弑シテ、瑯邪王德文ヲ

立ツ、恭帝諱ハ德文元熙二年宋高祖武帝宋王

劉裕皇帝ト稱レ、帝ヲ廢シテ零陵王トス、裕宋公

ヨリ爵ヲ進ム是ニ至テ晋ノ禪ヲ受ク、秘書監徐

廣悲感流涕ス、侍中謝誨曰ク、徐公小過ナカラシ

ヤ、廣曰ク、君ハ宋朝ノ佐命身ハ晋室ノ遺老、悲歡

同レカラス、

宋紀姓ハ劉氏、北朝魏附ス、

高祖武帝諱ハ裕、字ハ德、宋永初二年、是歲北涼

宋ノ豫章太守謝瞻卒ス、瞻ノ弟晦顯遇セラレ、賓

客輻湊ス、瞻驚テ晦ニ謂テ曰ク、汝名位未多カラ

ス、而ルニ乃爾リ豈門戸ノ福ナラニヤ、三宋主

裕殂ス、小帝諱ハ義符、武、景平魏主嗣殂ス、太

子燾立ツ、太祖文帝諱ハ義隆、高、元嘉元年、魏

年光元宋ノ徐羨之傅亮謝晦其主義符ヲ廢弒シ、宜

都王義隆ヲ迎立ス、三宋徐羨之傅亮ヲ討殺ス、

謝誨兵ヲ舉テ反ス宋主自將トシテ晦ヲ討殺ス、

四晋ノ徵士陶潛卒ス、潛字ハ淵明、彭澤令タリ、

郡ノ督郵至ル、吏束帶シテ見エシム、潛歎シテ曰

ク我豈五斗米ノ爲メニ郷里ノ小兒ニ腰ヲ折ラ

シヤト、即日印綬ヲ解テ去ル、先世晋ノ臣タルヲ

以テ復仕ヘス、卒レテ靖節先生ト號ス、七年宋到
 彦之ヲ遣リテ魏ヲ伐ツ、彦之等河南ヲ取ル、諸將
 皆喜ス、王仲德憂テ曰ク諸君北土ノ情偽ヲ諳ン
 セス、必其計ニ墮チン、冬果レテ南侵ス、宋ノ檀道
 濟衆ヲ帥井テ魏ヲ伐ツ、到彦之軍ヲ棄テ、走ル、
 魏宋ノ滑臺ヲ攻ム、道濟食盡キテ引キ還ル、十
 三年、前年春夏皆七フ、是歲燕七フ、次年涼七フ宋其司徒檀道濟ヲ殺
 ス、道濟功ヲ前朝ニ立テ、兵ヲ用井ルニ長ス、讒ヲ
 以テ收ヘラル、目光炬ノ如シ、憤ヲ脱レ地ニ投シ
 テ曰ク、汝ノ萬里長城ヲ破ルト、魏人之ヲ聞テ喜

ス、七年魏其ノ司徒崔浩ヲ殺ス、浩自、才略ヲ恃
 ミ、朝權ヲ專ニス、魏主命シテ國史ヲ修メシム、浩
 務テ實録ニ從ヒ、石ニ刊シテ、直筆ヲ彰ハス、此人
 忿恚シ、國惡ヲ暴揚スト、譖ス、帝怒テ浩ヲ案誅ス、
 宋ノ王玄謨勸メテ魏ヲ伐タシム、沈慶之曰ク、耕
 ハ奴ニ問ヒ、織ハ婢ニ問フヘシ、國ヲ伐ツニ柰何
 ノ白面ノ書生ト謀ル、玄謨進テ滑臺ヲ圍ム、魏之
 ヲ救ス、衆百萬ト號ス、玄謨懼テ走ル、魏主追進シ
 テ江ヲ渡ラントス、建康震懼ス、宋主歎シテ曰ク、
 檀道濟若在ラハ、胡馬ヲレテ此ニ至ラシメシヤ、

明年魏ノ師還ル、二十九年魏ノ中常侍宗愛其君熹ヲ弒ス、魏主濬立テ愛ヲ誅ス、三十年宋ノ太子劬其君義隆ヲ弒ス、武陵王駿劬ヲ討誅シテ立ツ、世祖孝武帝諱ハ駿文帝、孝建三年宋ノ金紫光祿大夫顏延之卒ス、延之ノ子駿貴重ナリ賓客門ニ盈ツ、延之曰ク吾平生要人ヲ見ルヲ喜ハス、今不幸ニシテ汝ヲ見ル、八年宋主駿殂ス、前廢帝諱ハ子業、孝武帝廢帝景和元年魏主濬殂ス、太子弘立ツ、明帝泰始元年宋主恣睢不道ナリ、遂ニ其左右ニ殺サル、湘東王彧ヲ立ツ、太宗明帝諱ハ彧文帝、泰始二年魏

宏延興元年宋蕭道成ヲ散騎常侍トス、魏主弘位ヲ太子宏ニ傳ヘ、太上皇帝ト稱ス、泰豫元年宋主彧殂ス、後廢帝諱ハ昱明帝承明元年魏ノ太后馮氏其主弘ヲ弒ス、順帝諱ハ準明帝、昇明元年魏宋ノ中領軍蕭道成其主昱ヲ弒シ、安成王準ヲ立テ、自司空トナリ、尚書事ヲ錄ス、宋主嘗テ直ニ領軍府ニ入ル、道成晝卧裸袒ス、昱起立セシメ腹ヲ射ントス、道成曰ク老臣罪ナシ、乃更ニ翫箭ヲ以テ射テ其臍ニ中ツ、道成憂懼ス、密ニ廢立ヲ謀リ、遂ニ之ヲ弒ス、袁粲等謀テ道成ヲ誅セントス、褚

淵之ヲ道成ニ告ク祭父子俱ニ石頭城ニ殺サル、
三年齊太祖蕭道成建元元年宋ノ蕭道成自相國齊公トナル、
 己ニシテ王トナル、遂ニ皇帝ト稱ス、宋主廢セラ
 ル泣テ曰ク願クハ世々復天王ノ家ニ生ルコト
 勿ラン、

齊紀 姓ハ蕭氏建業ニ都ス、北朝魏附ス、

太祖高帝 諱ハ道成、字ハ紹伯、漢ノ蕭何ノ後、 建元二年、齊褚淵ヲ司徒トス、淵入朝ス、腰扇ヲ以テ日ヲ障ス、劉祥曰ク此ノ如キ舉止人ヲ見ルヲ羞ルナラシ、淵曰ク寒士不遜ナリ、祥曰ク袁粲劉秉ヲ殺スコト能ハス、安

ソ寒士ヲ免レン、
四年齊主道成歿ス、齊主沈深大略アリ、性清儉ナリ、毎ニ曰ク我天下ヲ治ムルコト十年ナレハ、黄金土ト價ヲ同スヘシ、世祖武帝 諱ハ頤、字ハ宣遠、高帝ノ太子、 永明三年、齊王儉ヲ以テ國子祭酒ヲ領セシム、宋ノ世祖文章ヲ好ムヨリ、士大夫經ヲ專ニスル者ナシ、儉禮學春秋ヲ好ミ、言論必儒者ニ於テス、衣冠翕然トシテ儒術ニ向フ、
十一年齊王頤歿ス、廢帝鬱林王 諱ハ昭業、太子長懋ノ長子、立チテ一年、蕭鸞之ヲ弒シ、新安王昭文ヲ立ツ、是ヲ廢帝、海陵王トス、在位四月、鸞又廢弒シテ自立ス、 高宗明帝 名ハ鸞、高帝ノ兄道生ノ子、 建武三年、魏姓ヲ元ト改ム、魏主

好シテ書ヲ讀ミ、賢ヲ好シ善ヲ樂ム、禮樂鬱然トシテ太平ノ風アリ、後四年ニシテ殂ス、太子恪立ツ、永泰元年齊主鸞殂ス、太子寶卷立ツ、喪ニ在テ禮ナシ、毎ニ喉痛ト云テ哭セス、廢帝東昏侯諱ハ寶卷明帝ノ第二子、永元二年魏宣武帝恪景明元年齊主昏淫狂恣ナリ、金蓮花ヲ爲リテ、地上ニ帖シ、潘妃ヲシテ其上ニ歩セシメテ曰ク歩々蓮花ヲ生ス、雍州刺史蕭衍兵ヲ起シ、進テ建康ヲ圍ム、先ニ南康王寶融齊主ヲ廢シテ自立ス、即和皇帝ナリ、衍入テ大司馬トナル、

梁紀 姓ハ蕭氏、齊ノ珠族、建康ニ都ス、魏附ス、

高祖武帝 諱ハ世達、字天監、蕭衍自相國梁公トナル、

遂ニ皇帝ト稱シ、齊主ヲ廢弒ス、六年梁徐勉ヲ

吏部尚書トス、勉嘗テ門人ト夜集ス、客官ヲ求ム、

勉色ヲ正クシテ曰ク、今夕風月ヲ談スヘシ、公事

ニ及フ可カラス、十四年魏主恪殂ス、太子詡立ツ、

大通二年魏武泰元年魏ノ胡太后其主詡ヲ毒

殺シ、臨洮王ノ世子釗ヲ立ツ、魏ノ車騎將軍六州、

大都督爾朱榮兵ヲ晋陽ニ舉ケ、長樂王子攸孝文

ヲ立テ、太后及幼主釗ヲ河ニ沈メ、自都督中外諸

軍事太原王トナリ、晋陽ニ還ル、北海王顥梁ニ走
 ル、梁之ヲ立テ、魏主トシ、沈慶之ヲシテ兵ヲ將
 井テ洛陽ニ納レシム、中大通元年魏主子攸出奔ス、
 爾朱榮來リ救フ、魏王顥走死ス、子攸洛陽ニ還ル、
 梁主同泰寺ニ捨身ス、二年魏主曄建明元年魏ノ爾朱榮
 伏誅ス、榮不臣ノ志ヲ蓄フ、魏主謀テ兵ヲ伏セテ
 之ヲ斬ル、爾朱世隆反シ、長廣王曄ヲ立テ、洛陽
 ニ入り、其主子攸ヲ放弒ス、後謚シテ莊帝ト曰フ、
三年魏節閔帝恭普泰元年魏ノ爾朱世隆其主曄ヲ廢シ、廣
 陵王恭ヲ立ツ、魏ノ冀州刺史高歡兵ヲ起シ、爾朱

氏ヲ討ス、歡元朗ヲ立テ、自丞相トナル、四年
魏武帝修永熙元年魏ノ高歡其主恭及朗ヲ廢シ、平陽王修
 フ立テ、自大丞相トナル、爾朱兆ヲ討殺シ、遂ニ
 晋陽ニ據ル、六年東魏孝靜帝善見天平元年是歲魏ニ分ル、魏ノ高歡
 兵ヲ引テ洛陽ニ入ル、主修長安ニ奔テ、宇文泰ニ
 依ル、泰大丞相トナル、尋テ脩ヲ毒弒ス、歡清河王
 ノ世子善見ヲ立ツ、是ヲ東魏トス、尋テ鄴ニ遷ル、
大同元年魏文帝寶炬大統元年魏ノ大丞相泰南陽王寶炬ヲ
 立ツ、太清元年東魏武定四年東魏ノ大丞相渤海王高歡卒
 ス、歡病篤シ、子澄ニ謂テ曰ク、侯景飛揚跋扈ノ志

アリ、景ニ敵スル者ハ、唯慕容紹宗ノミ景果シテ
 河南ヲ以テ魏ニ降ル、復叛テ梁ニ附ス、群臣皆納
 ル、コトヲ欲セス、梁主曰ク、我國家ハ金甌ノ如
 レ、景ヲ納レテ紛紜ヲ致サハ悔エトモ何ソ及ハン、朱
 异勸テ之ヲ納ル、二東魏ノ慕容紹宗侯景ヲ擊
 ツ、景敗走ス、南襲シテ壽春ニ據ル、梁就テ南豫州
 刺史トス、東魏成テ梁ニ求ム、景疑テ反シ、兵ヲ引
 テ南渡シ、建康ヲ圍ム、江左久シク無事ナリ、梁主
 佛法ヲ崇ミテ上下俱ニ化ス、援兵ノ至ル者皆敗
 ル、三侯景臺城ヲ陷ル、景入見ス、梁主神色變セ

スシテ曰ク、卿久シク軍中ニ在リ、勞スルコト母
 ランヤ、景敢テ仰キ見ス、汗流レテ面ニ被フル、退
 テ曰ク、吾鞍ニ跨リ、陣ニ對シ、矢石交下ルモ怖心
 ナシ、今蕭公ヲ見ルニ、才冒レシム、梁主景ニ制セ
 ラレ、憂憤シテ疾ヲ成ス、口苦シ、蜜ヲ索ムルニ得
 ス、荷々ト曰テ殂ス、梁ノ始興、太守陳霸先兵ヲ起
 シテ侯景ヲ討ス、太宗簡文帝諱ハ綱、武帝ノ弟
 母弟、大寶元年、齊文宣帝高洋天保東魏ノ高洋
 ナリ、元年是歲、東魏亡ス、齊代ル、自丞相トナリ、齊王ニ封セララル、先ニ高澄其下ニ
 殺サル、洋賊ヲ討ス、是ヨリ勢權洋ニ歸ス、遂ニ皇

帝ト稱シ、東魏主ヲ廢弒ス、魏蕭詠ヲ立テ、梁主ト
 ス、二年、魏主寶炬歿ス、太子欽立ツ、侯景主綱ヲ廢
 弒シ、又立ツル所ノ豫章王棟ヲ廢シテ、漢帝ト自
 稱ス、世祖孝元帝諱ハ、繹、武帝、承聖元年、魏主欽元年、梁
 ノ湘東王繹王僧辯陳霸先ヲシテ、侯景ヲ討セシ
 ム、景敗レテ、吳ニ走リ、將ニ海ニ入ラントス、其下ニ
 殺サル、景ノ尸ヲ建康ノ市ニ暴ス、士民爭ヒ取テ
 之ヲ食ス、骨ヲ并セテ皆盡ク、梁主繹立ツ、江陵ニ、即位ス、
二年、梁ノ武陵王紀帝ヲ成都ニ稱シ、東下シテ江
 陵ヲ伐ツ、魏成都ヲ伐テ之ヲ救フ、紀敗レテ殺サ

ル、成都魏ニ降ル、三年、魏恭帝、元年、魏ノ宇文泰其主欽
 ヲ廢ヒ、齊王廓ヲ立ツ、魏柱國于謹ヲ遣リ、師ヲ帥
 井テ梁ヲ伐テ、江陵ニ入ル、城陷ル、梁主古今ノ圖
 書十四萬卷ヲ焚テ曰ク、文武ノ道今夜盡ク、魏襄
 陽ヲ取リ、梁主詒ヲ江陵ニ徙シ、帝ト稱セシム、是
 ヲ後梁トス、魏ニ臣ト稱ス、梁ノ王僧辯陳霸先晋
 安王方智ヲ奉レテ制ヲ承ク、敬帝諱ハ、方智、元帝ノ第九子
紹泰元年、後梁宣帝蕭詠天定元年、齊梁ノ貞陽侯淵明ヲ遣リ還
 レテ帝ト稱セシム、王僧辯之ヲ奉レ、建康ニ歸ル、
 陳霸先僧辯ヲ殺シ、淵ヲ廢レテ、方智ヲ立ツ、魏ノ

太冢宰安定公宇文泰卒ス、世子覺嗣ク、泰性質素
政事ニ明達ス、儒ヲ崇ミ古ヲ好ム、凡施設スル所
皆三代ニ依放ス、覺自周公トナル、

陳紀 姓ハ陳氏、建康ニ都ス、
周齊附ス、

高祖武帝 諱ハ霸先、二年、陳永定元年、周愍帝字
字ハ興國、文覺元年、明帝毓元年、是歲

西魏セ、魏ノ周公覺天王ト稱シ、魏主ヲ廢ス、字
周代ル、文護自、大司馬トナル、既ニシテ覺ヲ弒シ、寧公毓

ヲ立シ、陳霸先自、相國トナリ、陳公ニ封セラレ、尋

テ王トナリ、遂ニ皇帝ト稱シ、梁主ヲ廢ス、三年、
周武

德元年、陳主霸先歿ス、兄ノ子臨川王倩立シ、周主始

テ皇帝ト稱ス、齊主洋歿ス、太子殷立ツ、世宗文

帝 諱ハ倩武帝ノ兄、天嘉元年、齊主殷乾明
始興王ノ長子、元年、昭帝演皇建元年、周ノ

冢宰護其君毓ヲ弒シテ、其弟魯公邕ヲ立シ、齊ノ

常山王演其主殷ヲ廢シテ自立ス、二年、周武帝
邕保定元年、

齊武成帝湛齊主演歿ス、弟長廣王湛立ツ、六年、
太寧元年、齊後

主緯天統元年、齊主湛位ヲ太子緯ニ傳ヘ、自、太上皇帝ト

稱ス、天康元年、周陳主倩歿ス、太子伯宗立ツ、陳

主性明察勤儉、艱難ヨリ起リテ民ノ疾苦ヲ知ル

高宗宣帝 諱ハ頊、始興、大進、陳主頊立ツ、前年
王ノ第二子、元年、

伯宗ヲ廢シ、九年、齊主恒承光齊主緯位ヲ太子

臨海王トス、元年、是歲、齊亡ス

恒ニ傳ス周ノ師鄴ヲ圍ム、緯出走ス、周主鄴ニ入
 ル、齊主嬖寵多シ、政亂ル、嘗テ周ノ使ヲ留ム、此ニ
 至テ周主齊ヲ伐ツ、齊主大ニ敗走ス、周遂ニ齊ヲ
 滅ス、十年、周宣帝周主邕殂ス、太子贇立シ、周主
 深沈ニシテ遠識アリ、政事嚴明、賢主ト稱ス、二十
年、周靜帝周主贇殂ス、闡立シ、隋公楊堅自大丞
 相トナリ、朝政ヲ總ス、尋テ隋王ニ進爵ス、十三
高祖文帝隋王堅皇帝ト稱ス、周主廢セラレ介
 堅開皇元年、公トナル、尋テ弒セラレ、十四陳主頊殂ス、太子
 叔寶立ス、後主諱ハ叔寶、宣元德陳主臨春結
帝ノ長子

綺望仙閣ヲ起ス、皆沈檀ヲ以テ爲ル、珠簾寶帳服
 玩瑰麗ナリ、陳主張貴妃龔孔ノ二貴嬪ト分レテ
 之ニ居ル、江總ヲ宰相トシ、政事ヲ親ラセス、孔範等
 ノ文士ヲ狎客ト謂テ侍宴セシメ、諸貴嬪ト相唱
 和ス、其曲玉樹後庭アリ、三隋初テ義倉ヲ置ク、
 梁主歸殂ス、太子琮立シ、隋之ヲ滅ス、二隋晉王廣ヲ
 元帥トシ、師ヲ帥井テ陳ヲ伐テ之ヲ滅ス、陳主隋
 兵ノ來ルヲ聞テ曰ク、王氣此ニ在リ、彼何爲レノ、
 隋兵朱雀門ニ入ル、陳主自井ニ投ス、軍人繩ヲ以
 テ引ク、張貴妃孔貴嬪ト同束シテ上ル、隋ノ將賀

若弼韓擒虎ニ獲ラルハ

隋紀

姓ハ楊氏、陝西長安縣ニ都ス、東晉分裂ヨリ此ニ至テ始テ混一ス

高祖文帝諱ハ堅、開皇二十年、太子勇ヲ廢シ、晋王廣

ヲ立テ、太子トス、勇率意情ニ任ス、服用侈靡、帝之

ヲ戒ム、廣彌自矯飾シ、嫡ヲ奪フノ計アリ、獨孤后

帝ヲ贊シテ遂ニ勇ヲ廢ス、仁壽三年、龍門ノ王

通太平十二策ヲ獻ス、通河汾ノ間ニ教授シ、弟子

甚衆シ、四年、太子廣帝ヲ弒シテ自立ス、帝不豫

ナリ、太子廣預、帝カ死後ノ事ヲ書シテ、僕射楊素

ニ問ス、答書誤テ帝ノ所ニ送ル、帝覽テ大ニ恚ル、

太子嘗テ帝ノ寵妃陳夫人ニ逼ル、帝夫人ノ神色

異ナルヲ恠テ之ヲ問フ、夫人泣然トシテ曰ク、太

子無禮ナリト、帝恚テ床ヲ抵テ曰ク、畜生、何ノ天

下ヲ付スルニ足ラシヤ、是ニ於テ太子右庶子張

衡ヲシテ帝ヲ弒セシメ、勇ヲ縊殺ス、煬帝諱ハ

字ハ阿磨、文帝ノ第二子、大業元年、東京ノ宮室ヲ營ム、濟渠ヲ

開キ、長安ノ西園ヨリ穀洛ノ水ヲ引テ、遠ク淮ニ

達ス、邗溝ヲ開キテ江ニ入レ、旁ニ柳ヲ樹ク、其間

離宮ヲ置ク四十餘所、帝龍舟ニ御シテ江都ニ如

ク、過ル所皆食ヲ獻セシム、後宮水陸ノ珍奇ニ厭

欽シ、多クハ之ヲ棄埋ス、營造巡遊虛歲ナシ、六年諸蕃來朝ス、百戲ヲ端門ニ陳シテ之ニ示ス、高麗王元ヲ徵ス、至ラス、七年帝自將トシテ高麗ヲ擊ツ、天下ノ兵ヲ涿郡ニ會ス、民夫漕運晝夜絶エス、天下騷動ス、王薄張金稱高士達竇建德等ノ兵起ル、高麗ヲ擊テ大敗シテ還ル、九年帝復高麗ヲ擊ツ、楚公楊玄感黎陽ニ督運シ、遂ニ反ス、帝還テ之ヲ擊ツ、玄感敗死ス、十年帝又高麗ヲ擊ツ、高麗降ヲ請ス、十二年、翟讓李密ノ兵起ル、密少クシテ才略アリ、志氣雄遠ナリ、嘗テ楊玄感ト

游ス、玄感敗レテ、密亡匿ス、遂ニ群盜翟讓等ト起テ、滎陽ヲ攻下ス、鄴陽ノ林士弘楚帝ト稱ヒ、江南ニ據ル、恭帝諱ハ隋文帝ノ孫十三年、恭帝義元德太子ノ子竇建德長樂王ト稱シ、後國號ヲ夏ト改ム、泰洛興倉ニ據テ、河南諸郡ヲ略取シ、魏公ト稱シ、突厥馬邑ノ校尉劉武周ヲ立テ、定揚可汗トス、朔方ノ郎將梁師都梁帝ト自稱シ、金城ノ校尉薛舉兵ヲ隴西ニ起ス、西秦霸王ト自稱シ、李淵兵ヲ太原ニ起ス、淵四男ヲ生ム、建成、世民、玄霸、玄吉、世民、聰、明、勇、決ニシテ、識量人ニ過ク、隋室ノ亂ルヲ見テ、

隋書卷之二十一 本紀十一 高祖本紀十一 十一

陰ニ天下ヲ安スルノ志アリ、劉文静世民ニ謂テ
 曰ク、主上南巡シ、李密東都ヲ圍ミ、郡盜蜂起ス、若
 驅駕シテ之ヲ用井、太原ノ豪傑ヲ收集シ、兵ヲ并
 テ關ニ入り天下ニ號令セハ、帝業成ラシ、世民笑
 テ曰ク、此我意ナリト、入テ淵ニ説ク、淵大ニ驚テ
 聽カス、世民復説ク、淵歎シテ曰ク、汝々言大ニ理
 アリ、家ヲ破リ軀ヲ亡スモ汝ニ由ル、家ヲ化シテ
 國トスルモ亦汝ニ由ル、建成世民ヲ遣リテ河朔
 ヲ拔キ、兵ヲ引テ霍邑ニ至ル、代王侑將ヲ遣リテ
 之ヲ拒ク、積雨ニ會フテ淵々糧乏シ、北還セント

ス、世民號哭シテ諫ハ、遂ニ戰テ代ノ將來老生ヲ
 斬ル、李密徐世勣ヲ遣リテ黎陽ノ粟ヲ取ル、李淵
 兵ヲ留メテ河東ヲ圍ミ、自兵ヲ引テ西ス、世民渭
 北ヲ徇フ、軍民群盜皆之ニ歸ス、濕城ノ虜玄贖軍
 門ニ謁ス、世民一見シテ舊識ノ如ク、淵長安城ヲ
 圍ム、蕭銑兵ヲ巴陵ニ起シ、梁王ト自稱ス、後帝ト稱ス、唐
ノ李靖擊テ李淵長安ニ克ツ、馬邑郡丞李靖淵ト
之ヲ降ス、隙アリ、將ニ斬ラレントス、世民爲ニ請テ之ヲ捨
 ス、召シテ幕府ニ置ク、李淵代王侑ヲ立テ、皇帝
 トシ、帝ヲ太上皇トシ、自大丞相唐王トナル、

唐紀 姓ハ李氏周ノ唐國公虎ノ後陝西長安ニ都ス

高祖神堯皇帝 諱ハ淵字隋恭帝隋義寧二年恭

武德元年是歲隋煬帝恭帝並ニ亡フ隋ノ宇文文化及其君廣フ江都

ニ弒ス煬帝江都ニ在リ荒淫益甚シ中原亂ル

ヲ見テ北歸ニ心ナシ從駕ノ人歸ルヲ思テ謀叛

ス許公字文化及ヲ主トシ夜兵ヲ引テ入りテ帝

ヲ縊殺ス化及許帝ト自稱ス後竇建德ニ誅セラ

ル唐王淵帝ト稱ス尋テ廢ス建成ヲ太子トシ世民

ヲ秦王トシ元吉ヲ齊王トス隋ノ越王侗帝ト稱

ス魏公李密隋ト戰テ大敗シ唐ニ降ル其將徐世

勳亦降ル姓李ヲ賜ス密ノ降ルヤ自台司ヲ期ス

唐主光祿卿邢國公トス密大ニ失望シテ遂ニ叛

ス行軍總管盛彥師討レテ之ヲ斬ル 隋恭帝皇

武德三年是歲隋亡フ 王世充鄭帝ト稱ス遂ニ隋主侗ヲ幽

弒ス 三年 唐ノ秦王世民定揚ノ將宋金剛ヲ擊破

ス定揚可汗武周及金剛走死ス 四年 夏王建德鄭

ヲ救フ唐ノ秦王世民大ニ破リテ之ヲ擒ス王世

充降ル建德ヲ斬ル 後又世充 竇建德ノ故將劉黑

闥兵ヲ漳南ニ起ス唐秦王世民ヲ天策上將ト

ス位王公ノ上ニアリ府ヲ開キ屬ヲ置ク杜如晦

房玄齡等十八學士更日直宿ス、五太子建成劉
 黑闥ヲ擊ツ、黑闥南遁ス、明年其將執ヘテ唐ニ降
 ル、之ヲ斬ル、七年是歲諸國皆滅ス、惟梁州縣鄉
師都貞觀二年ニ亡ス
 ノ學ヲ置ク、九年、夏、太白天ヲ度タル、唐ノ興ル
 皆秦王世民ノ謀ナリ、帝以テ嗣トセント欲ス、世
 民固辭ス、太子建成酒色遊畋ヲ喜ム、齊王元吉過
 失多シ、而シテ世民功名日ニ盛ナリ、建成元吉世
 民ヲ殺サント謀ル、秦府ノ僚屬王ニ勸テ周公ノ
 事ヲ行ハシム、カ請シテ乃決ス、兵ヲ帥井テ玄武
 門ニ伏ス、建成元吉入ル、世民建成ヲ射殺シ、尉遲

敬徳元吉ヲ射殺ス、遂ニ世民ヲ立テ、太子トス、
 故ノ東宮ノ官屬魏徵王珪ヲ諫議大夫トス、帝太
 上皇ト稱シ、太子即位ス、妃長孫氏ヲ皇后トス、后
 讀書ヲ好シ、禮法ニ循ス、帝嘗テ與ニ賞罰ヲ議ス、
 后辭シテ曰ク、北鷄ノ晨スル惟家ノ索ルナリ、妾
 安ノ敢テ政ニ與ラシ、突厥ノ頡利突利ニ可汗入
 寇シ、渭水便橋ノ北ニ至ル、帝房玄齡等六騎ト徑
 ニ渭水ニ詣リ、頡利ノ約ニ負クヲ責ム、突厥大ニ
 驚キ、皆馬ヨリ下リテ羅拜ス、諸軍繼テ至ル、頡利
 懼テ盟ヲ請テ退ク、太宗文武皇帝諱ハ世民、貞
高祖ノ子

觀元年、天下ヲ分テ十道トス、關内、河南、河東、河北、山南、隴石、淮南、江南、嶺南、三年、房玄齡、杜如晦ヲ僕射トス、魏徵ヲ秘書監トシ、朝政ニ參預ス、玄齡善謀リ、如晦善斷ス、二人同心シテ國ニ狗フ故ニ唐ノ世賢相ヲ稱ス、ル房杜ヲ推ス、徵嘗テ帝ニ告テ曰ク、願クハ臣ヲ良臣タラシメ、忠臣タラシムルコト勿レ、帝曰ク、忠良異ナルカ、徵曰ク、稷契皋陶ハ君臣協同シテ俱ニ尊榮ヲ享ク、所謂良臣ナリ、龍逢比干ハ面折廷争シテ、身誅セテレ國亡フ、謂ハユル忠臣ナリ、上悅シ、突厥、頡利可汗政亂ル、李靖ヲ定襄道行軍

總管トシ、諸軍ヲ統テ之ヲ討ス、四年、行軍副總管張寶相、頡利可汗ヲ擒ニシテ以テ獻ス、七年、死囚三百九十人ヲ赦ス、帝親繫囚ヲ録ス、死スヘキ者ヲ見テ之ヲ憫ミ、縱ナテ家ニ歸ラシメ、來秋來リテ死ニ就クヲ期ス、皆期スルカ如ク詣ル、帝皆之ヲ赦ス、帝太上皇ヲ奉レテ未央宮ニ置酒ス、頡利可汗起舞シ、南蠻ノ馮智戴詩ヲ詠ス、上皇笑テ曰ク、胡越一家、古ヨリ未有ラス、九年、太上皇崩ス、十年、皇后長孫氏崩ス、府兵ヲ定ム、凡十道ニ府ヲ置ク、六百三十四、關内ハ二百六十一、皆諸

衛及東宮ノ六率ニ隸ス、季冬折衝都尉帥井テ戰
ヲ教ヘ、宿衛ニ當ル者番上ス、十四年、國子監ニ
臨ミ釋奠ス、時ニ天下ノ名儒ヲ徵ミテ學官トス、孔
穎達ニ命シ諸儒ト五經疏ヲ定ム、之ヲ正義ト謂
ス、十五年、李世勣ヲ兵部尚書トス、世勣并州ニ
在ルコト十六年、民夷懷服ス、帝曰ク、隋ノ煬帝百
姓ヲ勞シ、長城ヲ築クモ益ナシ、朕惟世勣ヲ晉陽
ニ置テ、邊塵驚カス、其長城タルコト豈壯ナラス
ヤ、十七年、鄭公魏徵卒ス、帝曰ク、銅ヲ鏡トセハ、
衣冠ヲ正スヘシ、古ヲ鏡トセハ、興替ヲ見ルヘシ、

人ヲ鏡トセハ、得失ヲ知ルヘシ、徵没シテ朕一鏡
ヲ亡ス、帝自碑文ヲ製シ石ニ書シ、功臣ヲ凌烟閣
ニ圖シ、太子承乾謀反ス、太子不才ナリ、魏王泰多
能ニシテ寵アリ、潛ニ嫡ヲ奪フノ志アリ、侯君集
功ヲ負テ怨望シ、釁ニ乘セント欲ス、因テ之ニ反
ヲ勸ム事覺ハル廢シテ廢人トス、君集誅セラレ、
泰降サレテ郡王トナル、晉王治ヲ立テ太子トス、
魏徵嘗テ君集ヲ薦ムルヲ以テ、帝其阿黨スルヲ
疑フ、又徵カ自前後ノ諫艸ヲ録シテ、褚遂良ニ示
スヲ聞キ、愈悦ハス、乃前ノ碑ヲ踏ス、十八年、帝

高麗ヲ親征ス、高麗百濟ト兵ヲ連テ、新羅入貢ノ道ヲ絶ツヲ告ルヲ以テナリ、十九年、帝洛陽ヲ發シ、定州ニ至ル、安市城ヲ攻ム、六旬下ラス、遼左早寒功ヲ成サス、歎恨シテ曰ク、魏徵若在ラハ朕ニ此行アラシメスト、驛ヲ馳テ徵ヲ祠リ、復其碑ヲ立ツ、遂ニ還ル、二十二年、司徒梁公房玄齡卒ス、二十三年、帝崩ス、帝武功ヲ以テ禍亂ヲ定ムト雖、終ニ文德ヲ以テ海内ヲ綏ス、長孫無忌褚遂良遺詔ヲ受テ太子ヲ輔ク、遼東ノ兵ヲ罷ム、太子即位ス、李世勣ヲ左僕射トス、高宗皇帝諱ハ治太宗ハ

第九 永徽五年、太宗ノ才人武氏ヲ昭儀トス、故、荊州、都督武士彠ノ女ナリ、帝嘗テ入りテ太宗ニ侍ス、武氏ヲ見テ悦ス、故ニ王后之ヲ納ル、大ニ幸セラレ、六年、褚遂良ヲ貶シテ潭州、都督トス、帝武昭儀ヲ立テ、后トセントス、遂良遺命ヲ執リテ固ク争ス、昭儀簾中ヨリ大言シテ曰ク、何ソ此獠ヲ撲殺セサル、西南夷ヲ獠ト曰、帝更ニ李勣ニ問ス、勣對テ曰ク、此陛下ノ家事、何ソ必シモ外人ニ問ハント、事遂ニ決ス、皇后王氏ヲ廢シ、武氏ヲ立シ、李義府ヲ參知政事トス、義府容貌温恭、人ト嬉怡

ス、而レテ狡險忌刻ナル人笑中ニアリト謂ス、
 顯慶四年太尉趙公長孫無忌ノ官封ヲ削リ黔州
 =安置ス、武后其己ヲ助ケサルヲ怨テナリ、尋テ
 逼テ自縊セシム、武后專恣ニシテ、政房帷ニ歸ス、
 天子ハ拱手スルノミ、上元元年帝ヲ天皇トシ、
 后ヲ天后トス、二年太子弘毒ニ中テ卒ス、雍王
 賢ヲ太子トス、后初太子忠ヲ廢シ、弘ヲ立シ、后ノ
 子ナリ、奏請シテ屢旨ニ逆ス、故ニ之ヲ鳩ス、後又
 賢ヲ廢シ、太子哲ヲ立シ、弘道元年帝崩ス、太子
 哲即位ス、褚遂良等死後群臣敢テ諫ル者ナシ、李

善感奉天宮ヲ作ルヲ諫ム、人以テ鳳朝陽ニ鳴ク
 トナス、中宗諱ハ哲、高宗ノ第七子、武后廢
 廬陵王トス、後迎還ス、嗣聖
 元年睿宗文明元年、
 太后光宅元年、太后帝ヲ廢シテ豫王旦ヲ立
 シ、太后帝ヲ房州ニ遷ス、又均州ニ遷ス、武氏ノ七
 廟ヲ立シ、英公李敬業兵ヲ揚州ニ起シ、廬陵王ヲ
 匡復スルヲ辭トス、太后李孝逸ヲ遣リテ之ヲ擊
 破ス、其將敬業駱賓王ヲ斬テ降シ、瑯邪王冲越王
 貞又兵ヲ舉テ匡復ス、克タスレテ皆死ス、太后遂
 =大ニ唐ノ宗室ヲ殺ス、七年周武氏天
 授元年、太后國
 號ヲ周ト改メ、始テ周正ヲ用井、十一月ヲ正月

トシ十二月ヲ臘月トシ來歲正月ヲ一月トシ豫
 王且ヲ嗣トシ、姓ヲ武氏ト改ム、時ニ罍武氏名年六
 十七、初僧懷義ヲ寵シ、後張易之昌宗ヲ寵ス、兄弟
 事ヲ内ニ用井ル、易之ヲ五郎ト曰ヒ、昌宗ヲ六郎
 ト曰ス、罍人心ノ服セシレテ多ク己ヲ議スルヲ
 畏レ、盛ニ告密ノ門ヲ開ク、酷吏侯思止、索元禮、周
 興、來俊臣ノ徒、無辜ヲ網羅ス、八年、周狄仁傑ヲ
 同平章事トス、九年、周如意元年、再長壽ト改ム、周狄仁傑、魏
 元忠等ヲ貶シテ縣令トシ、周ノ左相武承嗣罷メ
 ラル、李昭徳ヲ同平章事トス、昭徳太后ニ謂ス、姑

姪ノ親ハ、父子ニ何如シ、子スラ猶其父ヲ篡弑ス、
 況ヤ姪ヲヤ、太后瞿然タリ、遂ニ承嗣ノ政事ヲ罷
 ム、十四年、周神功元年、狄仁傑ヲ同平章事トナス、
 十五年、周聖歷元年、帝東都ニ還ル、周立テ、皇太子ト
 ス、后武三思ヲ太子トセントス、狄仁傑諫ム、后怒
 ル、久シシテ又名サル、后曰ク、朕數、雙陸シテ、勝タサ
 ルヲ夢ミルハ何ソヤ、仁傑王方慶ト同辭シテ對
 テ曰ク、雙陸勝タサルハ子ナキナリ、天其陛下ヲ
 徹ムルカ、且姑姪ト子母ト孰レカ親シキ、陛下廬
 陵王ヲ立テハ、千秋萬歲ノ後、常ニ宗廟ニ享セン、

三思立クハ、廟ニ姑ヲ祔セス、后感悟ス、周姚元崇
 魏元忠ヲ同平章事トス、十七年周久視元年司空梁
 公狄仁傑卒ス、太后仁傑ヲ信重ス、之ヲ國老ト謂
 テ名イハス、薨スルニ及テ太后泣テ曰ク、朝堂空
 シ、神龍元年復正月ヲ歲首トス張柬之等兵ヲ舉テ武氏
 ノ亂ヲ討ス、張易之昌宗伏誅ス、帝復位ス、太后ヲ
 上陽宮ニ遷シ、尊號ヲ上テ、則天大聖皇帝ト曰フ、
 是冬崩ス、年八十二、國號ヲ復ス、復韋氏ヲ后トス、
 帝朝ニ臨ム、后帷帳ヲ施シ、殿上ニ坐シテ政ヲ預
 聞ス、上ノ女安樂公主武三思ノ子ニ適ク、三思因

テ宮禁ニ入ルヲ得テ、韋后ニ通ス、武氏ノ勢復振
 フ、張柬之等五人皆王爵ヲ賜テ、政ヲ罷ム、己ニシ
 テ皆殺サル、景龍元年、太子重俊兵ヲ起シ、武三
 思武宗訓ヲ討殺ス、既ニシテ兵潰エテ死ス、安樂
 公主上官婕妤等勢ニ依テ事ヲ用井、賂ヲ受ク、
 四年睿宗景雲元年皇后韋氏帝ヲ弑シ、温王重茂ヲ立シ、
 是ヨリ先ニ許州ノ參軍燕欽融皇后ノ淫亂ナル
 フ抗言ス、宗楚客制ヲ矯テ之ヲ撲殺ス、上意快々
 タリ、后及其黨始テ懼ヒ、安樂公主ト謀テ毒ヲ進
 ム、帝崩ス、臨淄王隆基兵ヲ起シテ韋氏ヲ討ス、安

樂公主及其黨并ニ伏誅ス、相王旦即位ス、重茂ヲ
 廢シ、隆基ヲ立テ、皇太子トス、姚元之宋璟ヲ同
 三品トス、璟元之心ヲ協ヘ、弊政ヲ革ム、紀綱脩舉
 シテ、貞觀永徽ノ風アリトス、睿宗皇帝諱ハ旦
高宗ノ
 第八子、景雲二年、郭元振張說ヲ同平章事トス、太子
 ニ監國ヲ命ス、太極元年玄宗先
天元年、帝位ヲ太子ニ
 傳ス、太子即位ス、帝ヲ尊テ太上皇トス、玄宗明
 皇帝諱ハ隆基、睿
宗ノ第三子、開元元年、太平公主逆ヲ謀ル、因
 テ死ヲ賜ス、其黨蕭至忠岑羲竇懷貞崔湜等伏誅
 ス、官者高力士ヲ右監門將軍トシ、姚崇崇ハ即元
之始名ハ

元崇、今元ヲ省ク、ヲ紫微令トス、二年、左右教坊ヲ置ク、
 之ヲ皇帝梨園ノ弟子ト謂ス、三年、盧懷真ヲ黃
 門監トス、懷慎清謹儉素ニシテ、妻子飢寒ヲ免レ
 ス、姚崇嘗テ謁告スルコト十餘日、政事委積ス、崇
 出シ、須臾ニ裁決シ盡ス、顧テ齊澣ニ謂テ曰ク、我
 相タルコト何如ク、澣曰ク、時ヲ救フノ相ト謂フ
 ヘシ、時ニ懷慎ヲ伴食、宰相ト謂ス、四年、太上皇
 崩ス、姚崇罷メラル、宋璟ヲ黃門監トス、璟相トナ
 リ、務テ人ヲ擇ヒ、材ニ隨テ任ヲ授ク、刑賞私ナシ、
 姚宋相繼テ相トナル、心ヲ協ヘテ輔佐ス、唐世ノ

漢史一珠 卷二 三十七

賢相前ニ房杜ヲ稱シ、後ニ姚宋ヲ稱ス、九年、宇文融ヲ勸農使トス、融天下ノ戸口ヲ檢括セントシ、勸農判官十人ヲ置テ、天下ヲ分行シ、競テ刻急ニス、州縣勞擾シ、百姓怨苦ス、十年、始テ壯士ヲ募テ宿衛ニ充ツ、兵農ノ分ル此ヨリ始ル、二十一年、韓休ヲ同平章事トス、休峭直ナリ、帝或ハ宴遊小過アレハ、輒韓休知ルヤ否ヤト問ス、言終テ諫疏已ニ至ル、左右曰ク、休相ト爲テ、陛下殊ニ瘦セタリ、帝曰ク、朕瘦タリトモ、天下肥エン、二十二年、張九齡ヲ中書令トシ、李林甫ヲ同三品トス、林

甫柔佞ニシテ狡數多シ、深ク宦官妃嬪ニ結テ、上ノ動靜ヲ伺ス、是ニ由テ奏對スル毎ニ旨ニ稱ス、二十四年、幽州節度使張守珪討擊使安祿山ヲシテ奚契丹ヲ擊タシメ、敗績ス、守珪祿山ヲ執ヘテ京師ニ送ル、帝其才勇ヲ惜テ赦サントス、張九齡曰ク、律ヲ失シ、師ヲ喪フ、誅セスハアルヘカラス、且反相アリ、多クハ後患アラント、帝聽カス、竟ニ之ヲ赦ス、祿山ハ本、營州ノ雜胡ナリ、帝在位久シ、漸ク奢欲ヲ肆ニス、九齡事ニ遇ヘハ力争ス、是ニ至テ罷ラル、林甫政ヲ專ニス、林甫甘言ヲ人ニ

啗ハセ、陰ニ之ヲ中傷ス、世謂フ林甫口ニ蜜アリ、
 腹ニ劔アリ、二十六年、忠王璵ヲ立テ太子トス、
名ヲ亨ト改ム、二十八年、荊州長史張九齡卒ス、帝九齡
 ヲ逐フト雖猶之ヲ愛重ス、宰相人ヲ薦ル毎ニ、輒
 問テ曰ク、風度九齡ノ如キヲ得ルヤ、天寶元年、
 安祿山ヲ平盧節度使トス、四載前年ヲ改ム、楊太
 真ヲ貴妃トス、壽王ノ妃ナリ、帝其絶美ヲ悦ビ、其
 意ヲ以テ乞テ女官タラシム、遂ニ寵ヲ專ニス、貴
 妃ノ從兄釗ニ名ヲ國忠ト賜ス、六載安祿山ヲ
 御史大夫トス、祿山體充肥、腹垂レテ膝ヲ過ク、帝

戲ニ其腹ヲ指テ曰ク此ノ胡腹中何ノ有ル所リ、
 對テ曰ク止、赤心アルノミ、十載安祿山ノ爲ニ
 弟ヲ起ス祿山ノ生日ニ帝ト貴妃トノ賜予甚厚
 シ、祿山宮掖ニ出入シテ通宵出テス、頗醜聲ノ外
 ニ聞ユルアレトモ帝疑ハス、祿山ニ河東節度使
 ヲ兼ネシム、十一載李林甫卒ス林甫左右ニ媚
 事シ、帝意ヲ迎合シ、言路ヲ杜絶ス、相位ニ在ルコ
 ト十九年、天下ノ亂ヲ養成ス、然レトモ帝悟ラス、
 十四載安祿山反ス、祿山逆久シト雖、帝ノ恩遇
 厚キヲ以テ隱忍セリ、揚國忠嘗テ帝ニ祿山カ必

反ヤンコトヲ言テ聽カニス、故ニ之ヲ激シ、其反
 ヲ速ニシテ、信ヲ帝ニ取ラント欲ス、其反スルヤ、
 國忠揚々トシテ得色アリ、郭子儀ヲ朔方節度使
 トス、平原太守顏真卿兵ヲ起シテ賊ヲ討ス、帝初
 河北賊ニ從フト聞テ、歎シテ曰ク、二十四郡曾テ
 一人ノ義士ナキカ、真卿ノ奏至ルニ及テ、大ニ喜
 テ曰ク、真卿何ノ狀ニシテ能、此ヲ如キ、常山、大守
 顏景卿兵ヲ起シ賊ヲ討ス、河北ノ諸郡皆之ニ應
 ス、十五載肅宗至
德元載、安祿山僭號シテ大燕皇帝ト
 稱ス、賊將史思明常山ヲ陷ル、顏景卿之ニ死ス、思

明兵ヲ引テ城下ニ至ル、景卿晝夜拒戰ス、城陷ル
 景卿ヲ執ヘテ祿山ニ送ル、景卿罵リテ曰ク、臊羯狗
 何ノ速ニ我ヲ殺サ、ル祿山大ニ怒テ縛シテ之
 ヲ梟ス、李光弼ヲ河東節度使トス、真源令張巡吏
 民ヲ帥井テ兵ヲ雍丘ニ起シ、賊ヲ討ス、郭子儀李
 光弼賊將史思明ト戰テ大ニ之ヲ敗リ、河北十餘
 郡ヲ復ス、哥舒翰賊ト靈寶ニ戰テ大敗ス、執ハレ
 テ賊ニ降ル、賊遂ニ關ニ入ル、帝蜀ニ出奔ス、馬嵬
 ニ次ル、將士飢疲シテ皆憤怒ス、禍ノ楊國忠ニ由
 ルヲ以テ國忠ヲ殺シ、帝ニ逼リテ貴妃ヲ縊殺ス、

明日馬嵬ヲ發ス、父老道ヲ遮リテ帝ヲ留ム、乃テ太子ニ命シテ宣撫セシム、父老太子ノ馬ヲ擁シテ行クコトヲ得ス、帝曰ク、天ナリト、太子ヲ留メテ賊ヲ討セシム、又位ヲ傳ヘント欲ス、太子受ケス、賊長安ヲ陷ビ、日夜縱酒シテ聲色寶賄ニ專意ス、故ニ帝安行シテ蜀ニ入ルコトヲ得タリ、太子亨靈武ニ即位ス、帝ヲ尊テ上皇天帝トス、李泌太子ト布衣ノ交ヲ爲ス、使ヲ遣リテ之ヲ召シ、事大小トナク與ニ謀ル、顏真卿蠟丸ヲ以テ表ヲ靈武ニ達ス、太子モ亦蠟丸ヲ以テ詔ヲ江淮ニ頒ツ、是ニ

由テ諸道始テ徇國ノ心益堅シ、諱ハ肅宗皇帝京女宗ノ弟至德二載、安慶緒祿山ヲ殺ス、祿山兵ヲ起スヨリ以來目昏シ、是ニ至テ復物ヲ見ス、嬖妾ノ子ヲ愛ヒ、慶緒ニ代ヘントス、慶緒人ヲシテ之ヲ弑セシム、自偽號ヲ襲ク、帝鳳翔ニ至ル、賊將尹子奇睢陽ヲ陷ル、張巡許遠之ニ死ス、子奇屢來リ攻ム、城中食盡ク、巡愛妾ヲ殺シテ士ニ食マヌニ至ル、南霽雲圍ヲ犯シ、出テ、急ヲ臨淮、賀蘭進明ニ告久、賀蘭應セス、城陷ル、巡西向再拜シテ曰ク、臣生テ陛下ニ報スルコト能ハス、死シテ厲鬼トナ

リテ賊ヲ殺サント、南霽雲雷萬春等三十六人ト
 害ニ遇フ、遠モ亦屈セスレテ死ス、廣平王俶郭子
 儀西京ヲ收復ス、回紇ノ兵モ亦至ル、倣衆ヲ將井
 テ鳳翔ヲ發シ、長安ニ至テ賊ヲ擊ツ、賊大潰ス、大
 軍西京ニ入ル、遂ニ軍ヲ引テ東シ、郭子儀等ト東
 京ヲ收復ス、安慶緒走テ鄴ヲ保ス、李泌衡山ニ歸
 ル、帝西京ニ至ル、上皇西京ニ還ル、乾元元年、淑
 妃張氏ヲ立テ、皇后トス、先ニ張良娣トス、淑妃トス、成王俶ヲ
 立テ、皇太子トス、名ヲ豫更ム、郭子儀等ノ九節度ニ
 命シテ、安慶緒ヲ討ス、宦官魚朝恩ヲ觀軍容使ト

ス、二年、史思明兵ヲ引テ慶緒ヲ救ス、九節度ノ
 兵鄴ニ潰ス、史思明慶緒ヲ殺シ、范陽ニ還テ僭號ス、
大燕皇帝ト稱ス、郭子儀ヲ名シ還ス、魚朝恩之ヲ惡ムカ
 故ナリ、李光弼ヲ朔方節度使兵馬元帥トス、光弼
 軍ヲ治ルコト嚴整ナリ、史思明ト河陽ニ戰テ、大
 ニ之ヲ敗ル、上元元年、李輔國帝ノ不豫ナルニ
 乘シテ、張后ト謀テ上皇ヲ西内ニ遷ス、上皇懌ハ
 ス、浸疾ヲ成ス、二年、史朝義史思明ヲ殺ス、思明
 少子ヲ愛シ朝義ヲ惡ム、朝義思明ヲ殺シテ自立
 ス、寶應元年、郭子儀ニ爵汾陽王ヲ賜ヒ、知諸道

行營トス、時ニ河東亂ル、故ニ子儀ニ命シテ之ヲ
 鎮ス、上皇崩ス、帝疾ニ寢ス、之ヲ聞テ轉劇シ、帝崩
 ス、李輔國皇后張氏ヲ弒ス、初張后輔國ト相表裏
 シテ權ヲ專ニス、晚ニ更ニ隙アリ、帝疾篤シ、后輔
 國ヲ誅セントス、太子ヲ召テ之ヲ謂フ、太子曰ク、
 陛下疾甚危シ、恐ラクハ震驚セシ、輔國其謀ヲ聞
 ク、帝崩シテ后ヲ殺ス、太子即位ス、輔國益横ナリ、
 雍王适ヲ天下兵馬元帥トシ、史朝義ヲ討ス、适諸
 道及回紇ノ兵ヲ率テ進ミテ洛陽ニ至ル、副元帥
 僕固懷恩賊柵ノ東北ニ出テ、表裏合擊シテ大ニ

之ヲ敗ル、盜李輔國ヲ殺ス、帝ノ使ムル所ナリ、
 代宗皇帝諱ハ豫原名徹廣德元年、李懷仙史朝義
 ヲ殺シテ、首ヲ京師ニ傳ス、賊將薛嵩田承嗣李懷
 仙等ヲ河北諸鎮ノ節度使トス、僕固懷恩賊平キ
 寵衰ルヲ恐レ、嵩等ヲ河北ニ留メテ黨援トス、河
 北朝命ヲ抗スル此ヨリ始ル、吐蕃長安ニ入寇ス、
 帝陝州ニ奔ル、郭子儀吐蕃ヲ擊ツ、吐蕃遁レ去ル、
 官者程元振專恣ナリ、吐蕃ノ入ル、掩蔽シテ奏セ
 ス、是ニ至テ漆州ニ流ス、二年、僕固懷恩反シテ
 太原ニ寇ス、郭子儀ヲ河中節度使トス、懷恩ノ將

士汾陽王至ルト聞テ皆之ニ歸ス、臨淮王李光弼卒ス、光弼郭子儀ト名ヲ齊クス、徐州ニ在リ兵ヲ擁
 レテ進マス、諸將復稟畏セス、光弼愧恨シ、疾ヲ成
 レテ卒ス、僕固懷恩回紇吐蕃雜胡ヲ誘テ入寇ス、
 郭子儀ヲ召シ涇陽ニ屯セシム、懷恩道ニ死ス、二
 虜長ヲ争テ睦カラス、子儀人ヲレテ回紇ニ説テ、
 與ニ吐蕃ヲ擊タシム、回紇信セスレテ曰ク、郭公
 在サハ、見ルコトヲ得ヘキヤ、子儀乃虜營ニ至ル
 傳呼レテ曰ク、令公來ル、虜大ニ驚テ皆羅拜ス、因
 テ其罪ヲ讓メ、相誓約シテ去ル、吐蕃聞テ遁ル、

五年、魚朝恩專恣不軌ナリ、元載奏レテ之ヲ誅ス、
 十四年、帝崩ス、太子适即位ス、楊炎ヲ同平章事
 トス、上方ニ精ヲ勵シ治ヲ求ム、不次ニ人ヲ用非
 炎道州司馬ヨリ舉ケラル、德宗皇帝諱ハ适、代宗ノ長子、
 建中元年、忠州刺史劉晏ヲ殺ス、晏善財計ヲ治ム、
 嘗テ謂ス、戸口滋息スレハ、賦税自廣シト、鹽利穀
 運以テ國用ヲ充足ス、然レトモ久シク利權ヲ典
 リ、衆頗疾ム、遂ニ讒ヲ以テ殺サル、
 二年、成徳節度使李寶臣卒ス、子惟岳留後ト自稱ス、寶臣、李正
 己、田承嗣、梁崇義等ト相結ヒ、土地ヲ子孫ニ傳ヘシ

ト期シ、互ニ相請ス、帝許サス、遂ニ共ニ謀リテ命
 フ拒ム、盧杞ヲ同平章事トス、杞藍面鬼色口辯ア
 リ、往テ郭子儀ヲ候ス、子儀悉ク姬妾ヲ屏ケテ曰
 ク、杞ハ貌陋シク心險ナリ、婦人之ヲ見ハ必咲ハシ、
 他日杞志ヲ得ハ、吾族類ナケシ、尚父太尉中書令
 汾陽王郭子儀卒ス、子儀身天下ノ安危ニ係スル
 コト三十年、年八十五ニシテ終ル、三年、李希烈
 天下都元帥ト自稱ス、時ニ朱滔田悅王武俊等皆
 反ス、希烈共ニ交通ス、四年、李希烈汝州ヲ陷ル、
 顏真卿命ヲ受テ之ヲ宣慰ス、希烈屢、真卿ヲ脇服

ヒントス、真卿屈セス、遂ニ殺サル、希烈襄城ニ寇
 ス、涇原節度使姚令言入りテ援ク、厚賜ヲ冀フトテ
 得ス、衆怒テ亂ヲ作シ、城ニ入ル、帝奉天ニ出奔ス、
 亂兵太尉朱泚ヲ奉シ、反シテ長安ニ據ル、泚遂ニ
 僭號シ、來テ奉天ヲ圍ム、李晟兵ヲ將井入りテ援
 ク、渾瑊泚ヲ擊テ之ヲ破走ス、李懷光難ニ赴ク、亦
 泚ヲ破リ、入りテ盧杞カ姦ヲ白サントス、杞隔テ
 、見ルコトヲ得ス、懷光上表シテ杞ヲ罪ス、衆論
 誼騰ス、遂ニ杞ヲ遠州司馬ニ貶ス、興元元年大
 赦ス、陸贄上ニ勸メテ己ヲ罪シ、天下ニ謝ス、四方

大ニ悦フ、王武俊田悅李納等皆王號ヲ去テ謝罪
 ス、李希烈僭號ス、李懷光反ス、帝梁州ニ奔ル、魏博
 ノ田緒其節度使田悅ヲ殺シ、軍府ヲ權知ス、李晟
 ニ諸道副元帥ヲ加ス、晟ノ家長安ニ在リ、軍中言
 ノ家ニ及フアレハ、晟泣テ曰ク、天子何クニ在ル、
 敢テ家ヲ言ンヤ、遂ニ京城ヲ收復ス、朱泚亡走ス、
 其將韓旻斬テ降ル、車駕長安ニ還ル、貞元元年
 馬燧河中ヲ平ク、李懷光縊死ス、二年淮西ノ將
 陳僊奇李希烈ヲ殺シテ降ル、吳少誠僊奇ヲ殺ス、
 少誠ヲ留後トス、吐蕃入寇ス、李晟之ヲ汧城ニ擊

破ス、三年張延賞ヲ同平章事トス、吐蕃馬燧ニ
 因テ和ヲ求ム、李晟曰ク、戎狄信ナシ、之ヲ擊ツニ
 如カス、延賞和ヲ便トシ、渾瑊ヲシテ之ト平涼ニ
 盟ハシム、吐蕃盟ヲ却ス、瑊走テ免ル、吐蕃晟燧瑊
 ヲ畏レテ曰ク、此三人ヲ去ラハ、唐ハ圖ルヘレト、是
 ニ於テ離間ノ謀ヲ行ヒ、瑊ヲ執ヘテ燧ヲ賣リ、因
 テ直ニ長安ヲ犯サントス、會瑊ヲ失テ止ム、李泌
 ヲ同平章事トス、帝泌ニ謂テ曰ク、人盧杞ヲ姦ト
 言フ、朕殊ニ覺エス、泌曰ク、此乃杞ノ姦邪トル所
 以ナリ、倘覺エハ豈建中ノ亂アラシヤ、八年趙

憬陸贄ヲ同平章事トス、十一年、陸贄ヲ忠州別
 駕ニ貶ス、裴延齡之ヲ譖スルナリ、諫議大夫陽城
 上疏シテ延齡カ姦邪ニシテ陸贄カ無罪ヲ論ス
 帝大ニ怒ル、太子爲ニ營救シテ解久、二十一年
 是歲八月永貞ト改元ス、帝崩ス、太子誦即位ス、初善書ノ王伾
 貞ト改元ス、帝崩ス、太子誦即位ス、初善書ノ王伾
 善棋ノ王叔文、太子ニ娛侍ス、密ニ翰林學士韋執
 誼及朝士ノ有名ニシテ速進ヲ求ムル者ニ結テ
 定テ死友トス、踪跡詭秘、其端ヲ知ル者ナシ、順
 宗皇帝諱ハ誦、德宗ノ長子、先ニ風疾有テ音ヲ失ス、二王等
 事ヲ用ヅル帝位ヲ太子ニ傳ス、二王貶セラレ、

病テ死ス、叔文ハ死ヲ賜ス、其黨皆遠貶ス、憲宗
諱ハ純、初名ハ淳、順宗ノ太子、元和元年、西川ノ節度使劉闢反ス、
 杜黃裳同平章事、高崇文神策行營節度使ヲ薦メ、兵ヲ將ヅテ
 之ヲ討ス、二年、武元衡、李吉甫ヲ同平章事トス、
 吉甫中書舍人裴垪ニ人才ヲ問ヒ、三十餘人ヲ得
 タリ、數月ノ間選用略盡ク、當時翕然トシテ人ヲ
 得ルト稱ス、垪尋テ相タリ、六年、李絳ヲ同平章
 事トス、李吉甫言ス、陛下太平ヲ樂シメ、絳曰ク、今
 烽火屢驚キ、水旱時ニ作リ、倉廩空虚ナリ、豈遽ニ
 樂マンヤ、帝左右ニ謂ス、吉甫媚悦ス、絳カ如キハ

真ノ宰相ナリ、七年、魏博ノ兵馬使田興吏ヲ請
 テ奉貢ス、詔シテ節度使トス、知制誥裴度ヲ遣リ
 テ宣慰シ、軍士ニ頒賞ス、一軍ノ歡聲雷ノ如シ、興
 ニ名ヲ弘正ト賜フ、十年、彰義ノ節度使吳元濟
 反ス、兵ヲ發シテ之ヲ討ス、裴度淮西ノ行營ヲ宣
 慰ス、還テ其取ルヘキヲ言フ、帝武元衡ニ兵事ヲ
 委ヌ、李師道ノ刺客元衡ヲ暗中ニ射殺シ、裴度ヲ
 傷ク、帝怒テ賊ヲ討スルコト益急ナリ、度ヲ同平
 章事兼彰義節度使トシ、淮西ノ宣慰招討使ニ充
 ツ、十二年、唐鄧ノ節度使李愬蔡州ヲ襲テ吳元

濟ヲ擒ス、愬雪夜兵ヲ引テ蔡州城ニ入り、鷲鴨池
 ヲ擊テ軍聲ヲ混シ、入りテ元濟ヲ執ヘ、檻シテ京
 師ニ送ル、諸鎮繼テ降ル、李愬ニ爵涼國公ヲ賜フ、
 裴度ニ爵晉國公ヲ賜ヒ、復入テ政事ヲ知ラレム、
 十三年、皇甫鎛程异ヲ同平章事トス、淮西既ニ
 平ク、帝寢、驕侈ナリ、异鹽鐵等ノ羨餘ヲ進ム、遂ニ
 相タリ、朝野駭愕ス、元和ノ政非ナリ、十四年、鳳
 翔法門寺ノ佛骨ヲ京師ニ迎ヘテ、禁中ニ留メ、諸
 寺ニ歷送ス、侍郎韓愈上表シテ極諫ス、上大ニ怒
 テ、潮州刺史ニ貶ス、魏博節度使田弘正李師道ヲ

討ス、平盧都將劉悟師道父子ヲ捕斬シ、首ヲ弘正ニ送ル。裴度罷ラレテ河東節度使トナル。皇甫鏘之ヲ擠ル、ナリ。十五年帝暴崩ス、時人皆言フ、宦者陳弘之カ弒逆セルナリト、其黨諱テ金丹ヲ服シテ崩スト言フ、太子恒即位ス、諱穆宗皇帝ハ恒憲宗ノ第三子、長慶元年、盧龍軍亂レ、節度使張弘靖ヲ囚ム、成徳ノ兵馬使王庭湊節度使田弘正ヲ殺ス、諸道ニ詔シテ之ヲ討ス、二年兵部侍郎韓愈ヲ遣リテ王庭湊ノ軍ヲ宣慰ス、庭湊刃ヲ拔キ、弓ニ弦シテ之ヲ迎フ、愈聲ヲ勵マシテ叱シ、説クニ

順逆ヲ以テス、庭湊禮シテ之ヲ歸ス、四年帝崩ス、太子湛即位ス、諱敬宗皇帝ハ湛穆宗ノ長子、寶曆二年裴度ヲ司空同平章事トス、李逢吉ノ黨百計度ヲ毀ル、帝益度ヲ厚待ス、宦官劉克明等帝ヲ室内ニ弒ス、江王涵立ツ、諱文宗皇帝ハ昂本名ハ涵、諱穆宗ノ第二子、太和二年、親舉人ヲ策ス、元和ノ末ヨリ宦官益横ナリ、賢良方正劉蕡對策シテ、其禍ヲ極言ス、考官宦官ヲ畏レテ敢テ取ラス、李邵曰ク、蕡ハ下第シ我輩ハ厚顔ニシテ登科スト、上疏シテ官ヲ回サントス、報セス、六年、牛僧孺相ヲ罷メラル、時ニ僧

孺李宗閔等李德裕ト各朋黨アリ、帝之ヲ患ヒ、每ニ歎レテ曰ク、河北ノ賊ヲ去ルハ易ク、朝中ノ朋黨ヲ去ルハ難シ、九年李訓鄭注等宦官ヲ誅セシコトヲ謀ル、克タズ、注ハ本宦者王守澄カ引ク所、訓ハ又注カ引ク所ナリ、後訓頗ル注ヲ忌ミテ之ヲ鳳翔ニ出シ、又遂ニ王守澄ヲ鴆殺ス、初注訓ト謀ル、守澄ノ葬ヲ送ル時ヲ待チテ、盡内臣ヲ殺サセト、然レトモ其功專注ニ歸センコトヲ恐レ、金吾廳事後ノ石榴ニ甘露アリト奏センメ、帝ニ親ラ觀ンコトヲ勸ム、帝宰相ニ先往キテ視センム、

訓訓時ニ同、平還テ其真ニ非ルヲ奏ス、帝仇士良ニ諸宦官ヲ帥帥テ往テ視センム、士良等至ル時ニ風幕ヲ吹キ起ス、兵ヲ執ル者甚衆キヲ見ル、驚キ走テ變ヲ告ク、訓遽ニ金吾衛士ヲ呼ビ、殿ニ上リ宦者ヲ縱殺ス、死傷十餘人、事ノ濟ラサルヲ知テ走ル、訓注舒元輿王涯賈餗等皆殺サル、是ヨリ天下ノ事此司宦官ヲ此ニ決ス、開成四年、司徒中書令晋公裴度卒ス、度ハ四朝ノ將相、威望遠ク四夷ニ達ス、身國家ノ輕重ニ繫ル、郭子儀カ如キコト二十餘年、五年帝疾甚シ、仇士良等太子成

漢史一編 卷一

辛

美カ立ツコト、己ニ由ラサルヲ以テ之ヲ廢ス、帝崩ス、太弟溼陳王成美ヲ殺レテ即位ス、武宗皇帝諱ハ溼、名ヲ炎ト改ム、穆宗ノ第五子、會昌元年昭義ノ節度使劉從諫卒ス、姪稹自留後トナル、李德裕曰久澤潞ノ事體ハ、河北亂ニ習フ者ト同レカラス、若又因テ之ニ投ケハ、威令諸鎮ニ行ハレスト、遂ニ河北ニ論レテ、與ニ各進討ス、潞人稹ヲ斬テ降ル、内侍仇士良致仕ス、其黨ニ謂テ曰ク天子ハ閑ナラシムヘカラス、奢靡ニ娛マシメ他事ニ暇無カラシムヨ、尋テ士良ノ官爵ヲ削リ、其家ヲ籍沒ス、六年

帝崩ス、光王忱入りテ即位ス、光王幼ニレテ不慧ト稱ス、是ニ於テ宦官策ヲ定メ立テ、皇太叔トス、太叔百官ヲ見テ庶務ヲ裁決スルニ、理ニ當ラサルナレ、人始メテ其隱徳アルヲ知ル、宣宗皇帝諱ハ忱、憲宗ノ第十三子、大中四年、令孤絢ヲ同平章事トス、帝嘗テ絢ト謀リテ宦官ヲ誅セントス、絢曰ク、但有罪ハ捨スコト勿ク、闕クレハ補フコト勿ク、自然盡ルニ至ラン、帝太宗ノ金錄ヲ絢ニ讀マレム、又貞觀政要ヲ屏風ニ書レテ之ヲ讀ム、十一年、韋澳ヲ河陽節度使トス、帝澳ニ州縣ノ風俗ヲ

纂次セシム、題シテ處分語ト曰フ、刺史ノ入謝ス
 ル時、帝州事ヲ敕戒ス、人々驚服セサルナリ、帝明
 察沈斷、諫ニ從フコト流ルカ如シ、民物ヲ惠愛ス、
 故ニ人大中ノ政ヲ思詠ス、十三年、帝崩ス、鄆王
 灌卽位ス、懿宗皇帝諱ハ灌、宣宗ノ長子、咸通九年、桂州ノ
 戍卒亂ル、初徐泗ノ兵桂州ニ戍シ、南詔ノ入寇ヲ
 禦ク、期ヲ過キテ代ルコトヲ得ス、遂ニ亂ヲ作シ、
 判官龐勛ヲ推シテ主トス、康承訓ヲ遣リテ之ヲ
 討ス、承訓沙陀ノ朱邪赤心ヲ前鋒トシ、與ニ戰フ、
 勛敗死ス、赤心ニ姓名ヲ李國昌ト賜ヒ、大同軍節

度使トス、尋テ又振武節度使トス、十四年、帝崩
 ス、普王儼卽位ス、僖宗皇帝諱ハ儼、始名ハ儼、乾
 符元年、濮人王仙芝亂ヲ作ス、懿宗以來賦歛愈急
 ナリ、關東連年水旱シテ、群盜蜂起ス、仙芝衆ヲ聚
 シ長垣ニ起ル、寃句ノ黃巢騎射ヲ善シ、粗書傳ニ
 涉シ、仙芝ニ應シテ州縣ヲ攻剽シ、衆ヲ聚メテ數
 萬ニ至ル、五年、大同軍亂ル、謀リテ曰ク、今天下
 大亂、李振武李國忠ノ子克勇三軍ニ冠タリ、輔ケテ
 事ヲ舉ケハ、代北ハ平クルニ足ラス、乃李克用ヲ
 推シテ留後トス、招討使曾元裕大ニ王仙芝ヲ破

リテ之ヲ誅ス、黄巢沂濮ヲ陷ヒ、宋汴ヲ掠ム、李國昌ヲ大同ノ節度使トス、國昌詔ヲ奉セスレテ克用ト合ス、靈龍及蔚朔ノ兵之ヲ討破ス、國昌克用達鞞ニ亡走ス、六年、鎮海ノ節度使高駢大ニ黄巢ヲ破ル、巢南走ス、既ニレテ桂州ヨリ湘ニ浴テ潭州ヲ陷ヒ、襄陽ニ赴ク、廣明元年、黄巢江淮ヲ渡リ、東都ヲ陷ル、遂ニ西シテ長安ニ入ル、帝興元ニ走ル、中和元年、帝成都ニ幸ス、黄巢ノ將朱温鄧州ヲ陷ル、尚讓鳳翔ニ寇ス、因テ李克用ヲ赦シ之ヲ召ス、鳳翔節度使鄭畋入リテ賊ヲ討ス、巢走

ル官軍掠取ヲ事トシテ軍整ハス、巢還リ襲テ復長安ニ入ル、二年、官軍四集ス、黄巢執日ニ感ヒ、朱温降ル、河中、行營招討使トシ、名ヲ全忠ト賜シ、李克用沙陀ノ兵ヲ帥ヰテ至ル、皆黒ヲ衣ル、賊之ヲ憚リテ曰ク、鷓軍至ル、三年、李克用黄巢ヲ破リテ長安ヲ收復ス、克用少ニシテ驍勇ナリ、軍中號シテ李鷓兒ト曰フ、一目微眇ナリ、人獨眼龍ト謂ス、是ニ於テ同平章事ヲ加ス、四年、黄巢汴州ニ趣ク、李克用追撃シテ大ニ之ヲ破ル、尚讓降ル、巢ヲ瑕丘ニ敗ル、賊黨巢ヲ斬テ降ル、克用汴ニ至ル、

朱全忠之ヲ饗ス、其夜全忠克用ヲ圍ム、克用醉テ知ラス、會雷雨晦冥ナリ、因テ圍ヲ突テ免ル、克用晋陽ニ還リ、奉表シテ全忠ヲ討セントス、詔シテ和解ス、光啟元年、車駕成都ヲ發シテ京師ニ至ル、田令孜、朱玟ヲ遣リ河中ヲ攻ム、留後王重榮救ヲ李克用ニ求ム、克用朝廷ノ全忠ヲ罪セサルヲ怨ミ、上言シ、兵ヲ引テ玟等ヲ破リ、進ミテ京城ニ逼ル、帝鳳翔ニ奔ル、二年、田令孜帝ヲ劫シテ寶鶏ニ如ク、朱玟等追テ車駕ニ逼ル、帝復走テ大散關ニ入ル、李克用王重榮共ニ請テ玟ヲ討ス、玟ノ

將王行瑜戰敗レテ長安ニ還ル、玟怒ル、行瑜遂ニ玟ヲ斬ル、車駕鳳翔ニ至ル、文德元年、帝長安ニ至ル、尋テ崩ス、太弟敏即位ス、昭宗皇帝諱ハ敏叔名ヲ曄ト改ム、大順元年、李克用ノ官爵ヲ削リ、張濬ヲ招討制置使トシ、諸道ノ兵ヲ會シテ之ヲ討ス、克用趙城ニ拒ク、官軍潰ユ、張濬韓建遁走ス、明年、濬等ヲ貶レテ克用ノ官爵ヲ復ス、景福二年、王建成都ヲ取リ、自西川留後ト稱シ、陳敬瑄田令孜ヲ殺ス、鳳翔ノ李茂貞邠州ノ王行瑜擅ニ兵ヲ舉テ興元ヲ擊ツ、楊復恭興元ニ走リ、楊守亮等ト命ヲ拒ム、帝其驕横ヲ怒

リ、策ヲ決レテ之ヲ討ス、官軍逃潰ス、茂貞遂ニ興
元ヲ取ル、楊復恭伏誅ス、二年、董昌越州ニ僭號
ス、鎮海節度使錢鏐之ヲ討ス、明年、昌伏誅ス、王行
瑜、李茂貞、韓建兵ヲ舉テ闕ヲ犯ス、李克用、上表シ
テ三鎮^{李王}ヲ討ス、克用行瑜ヲ邠州ニ斬ル、請テ
岐^{茂貞}華^建ヲ取ラントス、貴近其太盛ナルヲ恐レ
テ之ヲ止ム、克用ヲ晋王ニ進封ス、三年、李茂貞
兵ヲ舉テ闕ヲ犯ス、帝華州ニ走ル、克用兵ヲ發シ、
復入リテ援ク、四年、韓建兵ヲ以テ要シテ、諸王
ノ兵及、殿後ノ四軍ヲ罷ム、又制ヲ矯メテ諸王

一人ヲ殺ス、光化元年、車駕長安ニ還ル、三年、
中尉劉季述帝ヲ少陽院ニ幽ス、同平章事崔胤書
ヲ朱全忠ニ致シ、兵ヲ興シテ反正ヲ圖ラシム、
天復元年、神策指揮使孫德昭等劉季述ヲ討誅ス、
帝復位ス、宦者韓全誨等、日夜崔胤ヲ去ラントシ、
謀ル、胤朱全忠ヲ召ス、全忠大梁ヲ發ス、全誨等帝
ヲ劫シテ鳳翔ニ如ク、二年、朱全忠鳳翔ヲ圍ム、
三年、李茂貞、全誨等ヲ殺ス、請テ全忠ト和解シ、
車駕ヲ奉シテ長安ニ還リ、大ニ宦官ヲ誅ス、幼弱
ナル者三十人ヲ留メテ洒掃ニ備フ、全忠ヲ梁王

進ム、天祐元年、梁王全忠崔胤ヲ殺ス、全忠篡
 奪ノ志アリ、都ヲ洛ニ遷サント欲ス、胤ヲ恐レテ
 之ヲ殺シ、帝ニ請テ東行シ、士民ヲ驅徒ス、號哭路
 ニ滿ツ、車駕華州ニ至ル、民皆萬歳ト呼フ、帝泣テ
 謂テ曰ク萬歳ト呼フコト勿レ、朕復汝カ主タラ
 スト、洛陽ニ至ル、全忠帝ヲ弒ス、太子祝即位ス、
 昭宣帝諱ハ祚名ヲ祝ト更ム昭宗ノ子、天祐二年、朱全忠德王裕
 等十九人ヲ殺ス、皆昭宗ノ子、又裴樞、獨孤損、崔遠、陸扆、
 王溥等三十餘人ヲ白馬驛ニ聚メテ一夕ニ之ヲ
 殺ス、李振等言テ曰ク、此輩常ニ自清流ト謂ヘリ、

宜レク之ヲ黄河ニ投レテ濁流トスヘント、遂ニ
 尸ヲ河ニ投ス、全忠太后何氏ヲ弒ス

後梁紀姓ハ朱氏、洛陽ニ都ス

太祖皇帝諱ハ温、名ヲ全忠ト賜、梁王全忠皇帝ト

稱シ、開平ト改元ス、唐帝ヲ濟陰王トシ、明年之ヲ

弒シ、梁馬殷ヲ楚王トシ、五主ニ傳フ、周ノ太祖ノ時トシ、錢鏐ヲ

吳越王トス、四主ニ傳フ、宋ノ太祖ノ時トシ、李茂

貞、淮南楊ハ天祐ト稱シ、西川王建ハ天復ト稱ス、

餘ハ皆梁ノ正朔ヲ禀ク、年晉王克用卒ス、子存

勗嗣ク、晉王諸將ト謀リテ曰ク、朱温先王死スト

聞カハ、必驕怠セシ、若精兵其不意ニ出テハ、必破
 レント、遂ニ兵ヲ帥非テ直ニ夾寨ニ抵リ、大ニ梁
 ノ兵ヲ敗ル、梁主驚歎シテ曰ク、子ノ生マハ李亞
 子ノ如クナルヘシ、吾兒カ如キハ豚犬ノミ、
 年ニ梁主洛陽ニ至ル疾甚シ、近臣ニ向テ哽咽シテ
 曰ク、太原ノ餘孽昌熾ナリ、天又我年ヲ奪ハ、諸兒
 ハ彼カ敵ニ非ス、吾葬地ナケント、郢王友珪其主
 是ヲ弑シテ自立ス、末帝諱ハ友貞、名ヲ瑱ト
 更ハ太祖ノ第三子
 乾化梁ノ均王友貞兵ヲ起シテ賊ヲ討ス、友珪伏
 誅ス、友貞大梁ニ立ツ、
 貞明三年劉巖越帝ト稱ス、
 尋

國號ヲ漢 四年、吳楊渥、徐溫ニ弑セ徐知誥ヲ淮
 南行軍副使トシ政ヲ輔ケシム、知誥吳王ニ事ヘ
 テ賢才ヲ求メ、規諫ヲ納レ、宋齊邱ヲ引テ謀主ト
 ス、
 五年、吳越王鏐ノ子傳瓘大ニ吳ノ兵ヲ破ル、吳
 越吳ヲ攻ム、吳人之ヲ破ル、徐知誥敗卒ヲ躡シテ
 蘇州ヲ襲取セント請フ、徐溫離亂久シク民ノ困
 ムヲ以テ引テ還ル、晉德勝ノ北城ヲ廣ク日ニ梁
 人ト爭ス、大小百餘戰互ニ勝負アリ、
 後唐紀姓ハ朱耶氏、沙陀ノ人、唐
 姓李ヲ賜フ、洛陽ニ都ス、
 唐同光 晉王存勗皇帝ト稱ス、
 元年、國ヲ唐ト號ス、先ニ傳國璽

ヲ得ク、將佐皆賀ス、宦官張承業諫テ曰ク、吾王
 世々唐室ニ忠ナリ、遽ニ大位ニ即クハ、從來征伐
 ノ意ニ非ス、王何ソ先朱氏ヲ滅シテ、唐ノ後ヲ立
 テサル、梁王彥章ヲ遣リテ、鄆州ヲ攻ム、唐主之ヲ
 救ス、梁ノ師敗績ス、彥章之ニ死ス、唐主大梁ニ入
 ル、梁主瑱自殺ス、梁亡ス、彥章驍勇ナリ、一ノ鐵槍
 ヲ持シテ、馳突奮疾飛ヲカ如シ、軍中王鐵槍ト號
 ス、戰敗レテ擒ニ就キ、遂ニ殺サル、唐主幼ニシテ
 音律ヲ善ス、時ニ優人ト戲ル、優名ヲ李天下ト曰
 フ、唐魏王繼岌郭崇韜ヲ遣リテ、蜀ヲ伐ツ、王衍降

ル、
四年、明宗 魏王繼岌郭崇韜ヲ殺ス、崇韜素ヨ
天成元年 リ宦官ヲ疾ム、蜀ニ淹滞シテ未還ラス、唐主宦者
 向延嗣ヲ遣リテ之ヲ促ス、崇韜出テ迎ヘス、延嗣
 怒ル、歸リテ之ヲ劉后ニ譖ス、后帝ニ訴ヘ、且密ニ
 繼岌ヲレテ崇韜ヲ殺サシム、繼岌曰ク、彼覺端ナ
 レ、敕ナクレテ招討使ヲ殺スヘケンヤ、使者巧ニ
 利害ヲ陳ス、繼岌遂ニ之ヲ誘殺ス、唐ノ鄴都亂レ
 趙在禮ヲ帥トス、李紹榮ヲ遣リテ詔討スレトモ
 服セス、李嗣源ヲ遣リテ之ヲ討ス、嗣源至ル、其軍
 嗣源ヲ擁レテ城ニ入り、以テ河北ニ帝トセント

ス、嗣源在禮ニ詭説シ、脱レテ相州ニ奔ル、紹榮奏
 ス、嗣源賊ト合スト、嗣源上章シテ自理スレトモ
 通セス、石敬瑭因リテ嗣源ニ説テ大梁ヲ取リテ
 之ニ據ル、唐ノ伶人郭從謙其主存勗ヲ弑ス、唐主
 從謙ニ戯レテ曰ク、汝カ黨我ニ負キ、從謙郭崇韜
 父ト又王温ヲシテ反覆セシム、温禁中ニ宿衛
 ス、又王温ヲシテ反覆セシム、温禁中ニ宿衛
 フ爲シト欲スルヤ、從謙恐レ、禁門ニ火ス、唐主流
 矢中リテ殂ス、李嗣源洛陽ニ入ル、斬衰シテ即
 位ス、明宗皇帝諱ハ嗣源、名ヲ重ト唐天成
更々、克用ノ養子、二年、唐
 馮道崔協ヲ同平章事トス、石敬瑭ヲ六軍諸衛使

トス、郭從謙伏誅ス、吳王楊溥帝ト稱ス、唐長興
元年、
 唐主其子從榮ヲ秦王トシ、從厚ヲ宋王トス、二年、
 唐石敬瑭ヲ河東節度使トス、四年、閩主王延鈞帝
 ト稱ス、唐孟知祥ヲ蜀王トス、尋テ帝ト稱ス、唐主其子從
 珂ヲ潞王トシ、秦王從榮ヲ天下兵馬大元帥トス、
 唐主疾病ス、秦王從榮驕狠ナリ、唐主已ニ殂スト
 謂ヒ、兵ヲ引テ天津橋ニ陳ス、唐主天ヲ指シテ泣
 下ルコト良久シ、既ニシテ從榮兵潰エテ伏誅ス、
 群臣入見ス、唐主兩泣シテ曰ク、吾家事此ニ至ル、
 卿等シ見ルコトヲ慙ツ、遂ニ殂ス、從厚立ツ、閔

帝諱ハ從厚、明宗ノ第五子、唐應順元年、唐主從珂清泰元年、唐路王從珂ヲ

河東節度使トス、從珂兵ヲ鳳翔ニ舉ク、唐兵ヲ遣

リテ之ヲ討ス、官軍潰ユ、路王長安ニ至ル、招討使

康義誠降ル、唐主衛州ニ奔ル、路王洛陽ニ入り、其

主從厚ヲ廢シテ自立ス、廢帝諱ハ從珂、水姓ハ王氏、明宗ノ養子、

唐ノ河東節度使石敬瑭入朝ス、唐王敬瑭ト素相

悅ハス、時ニ敬瑭病テ羸瘠ス、唐主見テ虞トセス、

復鎮ニ遣ル、唐清泰二年、契丹邊ニ入ル、唐ノ北面總

管石敬瑭兵ヲ將井テ忻州ニ屯ス、關ノ李倣其主

璘ヲ弒シ、福王繼鵬ヲ立ル、名ヲ昶ト更ム、荆南節度使高

從晦性明達ナリ、梁震ニ委任シテ之ニ兄事ス、身

ヲ修メ刑ヲ省キ賦ヲ薄ス、境内以テ安シ、是ニ於

テ震老ヲ告ク、三年、晋石敬瑭天福元年、唐石敬瑭ヲ天平節

度使トス、敬瑭將佐ニ謀リテ曰ク、主上我ニ面許

ス、終身代除セスト、今忽ニ是命アリ、安シソ手ヲ束

子テ道路ニ死ナンヤ、劉知遠桑維翰等皆勸メテ

命ヲ拒マシム、唐主兵ヲ發シ之ヲ討ス、敬瑭救ヲ

契丹ニ求メ臣ト稱ス事捷タハ地ヲ割カント約ス、

契丹主邪律德光大ニ喜ヒ、兵ヲ發ス、唐ノ兵大敗ス、契

丹敬瑭ヲ立テ、晋皇帝トス、敬瑭幽薊十六州ヲ

割キテ之ニ賂ス契丹主晋主ト南下シ又唐ノ兵
ヲ破リテ潞州ニ至ル契丹ハ北還シ晋主ハ南下
ス唐主自焚シテ殂ス晋主洛陽ニ入ル

後晋紀 姓ハ石氏本西夷泉拔鷄ノ子晋王李克用ニ從テ雲翔ニ起ル大梁ニ都ス

高祖皇帝 諱ハ敬瑋後唐晋天福二年吳ノ徐知誥帝

ト稱シ國ヲ唐ト號ス吳主ヲ讓皇トス 諱本李氏名ハ昇楊

行密ノ時徐温ニ乞ヒテ徐氏ヲ冒ス知誥ト名ク大和中齊王ニ封セラレ是ニ於テ楊溥位ヲ傳ノ

復ス契丹遼ト改號ス 四年閩ノ王曦其主王昶

ヲ弒レテ自立ス後帝ト稱ス 六年唐使ヲ晋ニ遣

ハス唐主即位ヨリ江淮豐稔兵食餘アリ群臣舊

疆ヲ恢復スヘキヲ勸ム唐主曰ク吾軍旅ニ生長

ル兵ノ害クルヲ知ル彼ノ民安クハ吾民モ安ク

又何ヲカ求メシ晋ノ成德節度使安重榮契丹ノ

使ヲ執ヘ上表レテ之ヲ伐クント請フ晋主其跋扈

ヲ憂ヘテ劉知遠ヲ北京ノ留守トス重榮反ス討

破レテ之ヲ斬ル 七年漢主劉龔殂ス子珍嗣ク晋

主敬瑋殂ス兄ノ子齊王重貴立ツ 出帝 諱ハ重

儒ノ子敬 八年閩主王曦ノ弟富沙王延政帝ヲ建州

ニ稱レ國ヲ殷ト號ス唐主昇卒ス子璟立ツ南漢

主劉玢ノ弟弘熙玢ヲ弒シテ自立ス名ヲ晟ト更

六、晋契丹ノ田圃使喬榮ヲ執フ、既ニシテ之ヲ歸
 ヘス、初晋主敬瑭契丹ニ謹事ス、重貴立テテ景延
 廣主議シテ哀ヲ告ルニ臣ト稱セス、契丹大ニ怒
 ル、桑維翰遜辭シテ契丹ニ謝セント請フ、毎ニ延
 廣ニ沮メラル、晋開運元年契丹主晋ノ澶州ヲ攻ム、
 克タスシテ還ル、閩ノ指揮使朱文進其主曦ヲ弑
 シテ自立ス、文進連重過ト既ニ王昶ヲ弑ス、國人
 ノ討センコトヲ懼レテ竟ニ曦ヲ弑ス、閩人相帥
 井テ討誅シ、之ヲ斬テ二首ヲ殷ニ送ル、明年殷國號ヲ閩ト改ム、唐人建州ヲ拔ク契丹入寇ス、晋主劉知遠ニ
 閩主延政出テ降ル、

命レテ兵ニ山東ニ會セシム、知遠至ラム、晋主曰
 ク、河東知遠河東節度使タリ必異圖アリ、晋開運二年契丹
 復入リテ相州ニ至リ、引テ還ル、晋主自將トシテ
 之ヲ追フ、劉知遠曰ク、中國自守ルニ足ラス、乃横
 ニ疆胡ニ挑ム、勝ツモ後患アリ、况ヤ勝タサルヲ
 ヤ、冬契丹大舉シテ晋ニ入ル、招討使杜重威等契
 丹ニ降ル、契丹大梁ニ入り、晋主ヲ執ヘテ歸ル、桑
 維翰ヲ殺シ、景延廣ヲ囚フ、天福十二年漢ト改号ス契丹ノ
 耶律德光大梁ニ入ル、胡兵四出劫掠シ、打艸穀ト
 號ス、民其毒ヲ被リ、遠近怨歎ス、漢祖劉知遠太原

ヨリ起ル、州鎮多ク契丹ノ守將ヲ殺シテ漢ニ歸ス、德光大ニ懼レテ北歸ス、知遠帝ヲ晋陽ニ稱ス、

後漢紀 姓ハ劉氏沙陀ノ人、大梁ニ都ス、

高祖皇帝 諱ハ知遠、名ヲ嵩ト更ム、 契丹ノ德光大梁ヲ發シ、

殺胡林ニ至テ死ス、國人其腹ヲ割キ鹽ヲ實テ、

載セ去ル、晋人之ヲ帝祀ト謂フ、子兀欲自立ス、劉

知遠大梁ニ入ル、國號ヲ漢ト改ム、漢杜重威ヲ歸

德、節度使トス、重威命ヲ拒ム、討テ之ヲ降ス、後伏

誅ス、漢乾祐元年、 漢主殂ス、周王承祐立ッ、隱帝ハ諱

承祐、高祖ノ弟ニ子、 漢乾祐三年、漢主承祐其樞密使楊邠侍衛

指揮使史弘肇三司使王章ヲ殺ス、漢主即位ヨリ、

邠ハ機務ヲ總ヘ、郭威樞密使ハ征伐ヲ主リ、弘肇ハ

宿衛ヲ典リ、章ハ財賦ヲ掌リ、供饋乏シカラス、左

右嬖倖之ヲ嫉ミ、遂ニ謀リテ邠等ヲ殺ス、又使ヲ

遣リテ威ヲ殺サントス、克クテス、威兵ヲ舉ケテ反

ス、漢主亂兵ニ弑セラレ、威太后ニ白シ、寧武節度

使劉贇ヲ迎立セントス、契丹入寇スト聞テ又往

テ澶州ニ至ル、將士大ニ譟キ、黃旗ヲ裂テ威ニ被

セ共ニ抱持シテ萬歲ト呼ヒ、威ヲ擁シテ南行ス、

威遂ニ漢ニ代ル、

後周紀 姓ハ郭氏、邢州堯山人、大梁ニ都ス、

太祖皇帝 諱ハ威、少ニレテ賤シ、飛雀ヲ其頭上ニ照ス、世郭雀兒ト謂ス、 周廣順元

年、郭威皇帝ト稱シ、國ヲ周ト號ス、漢ノ湘陰公贇

ヲ弒ス、河東節度使劉崇隱帝害セラルト聞テ、兵

ヲ舉ケント欲ス、贇カ立ツヲ聞テ喜テ曰ク、吾兒

帝タラハ何ヲカ求メント、贇廢死セラレ、崇乃帝

ヲ晋陽ニ稱シ、是ヲ北漢トス、兵ヲ遣リテ周ヲ伐シ、契丹

主兵ヲ引テ會セントス、會、燕王述乾亂ヲ作シ、契

丹主ヲ弒シテ自立ス、述律討殺シテ之ニ代ル

世宗皇帝 諱ハ榮、本姓ハ柴氏、太祖ノ后ノ兄守禮ノ子、晋王ニ封セラレ、太祖養テ子トス

周顯德元年、周主威殂ス、晋王榮立ツ、周ノ太師中書

令馮道卒ス、道唐ノ莊宗ノ世ヨリ、累朝將相公師

ノ位ヲ離レシ、北漢王旻殂ス、子鈞立ツ、二周王

朴ヲ諫議大夫知開封府事トス、時ニ群臣多ク常

ヲ守リ、安ヲ偷ム、惟、朴神峻氣勁、謀アリテ能斷ス、

周主之ヲ重ス、三周主趙匡胤ニ命シ、唐ノ滁州

ヲ襲ハシメテ之ニ克テ、皇甫暉姚鳳ヲ清流關ニ

擒シ、周趙匡胤ヲ定國節度使兼殿前都指揮使ト

ス、匡胤趙普ヲ表シテ節度推官トス、五周主自

將トシテ江ニ臨ミ、水軍ヲ遣リテ唐ノ兵ヲ擊破

ス、唐江北 地ヲ獻シ、帝號ヲ去リ、周ノ正朔ヲ奉
 ス、南漢主晟殂ス、子鋹立ツ、年六周ノ淮南飢ユ、之
 ニ貸ス、或曰ク、民恐ラクハ償フコト能ハサラン、
 周主曰ク、民ハ吾子ナリ、子倒懸シテ父爲ニ解カ
 サルモノアラシヤ、周主自將トシテ契丹ヲ伐テ
 瀛莫易ノ州ヲ取ル、幽州ニ趨カントシテ疾アリ、
 還ル、周趙匡胤ヲ殿前都點檢トス、周主榮殂ス、梁
 王宗訓立ツ、時世宗ノ第四子ニ周主聰察神ノ如シ、常
 ニ言フ朕必喜ニ因テ人ヲ賞シ、怒ニ因テ人ヲ刑
 セス、

漢史一斑 第二卷 終

漢史二

卷三

六

文

定價金三拾錢